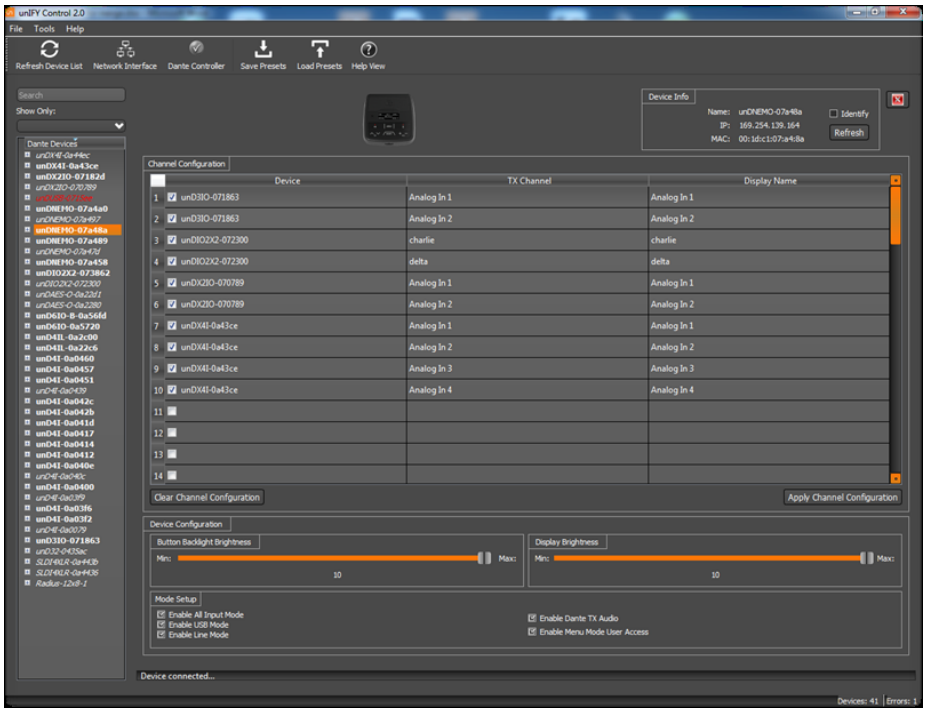
unIFY Control Panel

Configuration and Monitoring for Dante devices



目次

1 – 概要 ..... – 8 –
1.1 – unIFY Control Panel の使い方 ..... – 8 –
2 – ソフトウェアのインストール ..... – 9 –
2.1 – システム要件 ..... – 9 –
2.2 – インストール方法 ..... – 9 –
3 – アプリケーションの機能 ..... – 11 –
3.1 – デバイスリスト ..... – 12 –
3.1.1 – Dante and Parameter Locks ..... – 12 –
3.1.2 – チャンネルネーム ..... – 12 –
3.1.3 – デバイスコンテキストメニュー ..... – 13 –
3.2 – メニュー&ツールバー機能 ..... – 14 –
3.2.1 – Refresh Device List ..... – 14 –
3.2.2 – Network Interface ..... – 14 –
3.3 – Dante Controller ..... – 14 –
3.4 – Multi-Device Preset Load ..... – 15 –
3.5 – Smart Firmware Updater ..... – 16 –
3.6 – HELP ..... – 17 –
4 – デバイス設定 ..... – 18 –
4.1 – Device Info ..... – 18 –
4.2 – Preset 設定 ..... – 19 –
4.2.1 – Save Presets ..... – 19 –
4.2.1.1 – Save Device Presets ..... – 19 –
4.2.1.2 – Save File Presets ..... – 19 –
4.2.2 – Load Presets ..... – 19 –
4.2.2.1 – Recall Device Presets ..... – 19 –
4.2.2.2 – Recall File Presets ..... – 19 –
5 – unDIO2x2 の設定 ..... – 20 –
5.1 – unDIO2x2 Input 設定 ..... – 21 –
5.1.1 – Dante TX ..... – 21 –
5.1.2 – Preamp Control ..... – 21 –
5.1.3 – Dante TX Channel Status ..... – 21 –
5.2 – unDIO2x2 Output 設定 ..... – 21 –
5.2.1 – Dante RX ..... – 21 –
5.2.2 – Gain Control ..... – 21 –

5.2.3 – Assigned RX Channel ..... – 21 –

6 – unDIO2x2+の設定 ..... – 22 –

6.1 – unDIO2x2+ Input 設定 ..... – 23 –

6.1.1 – Dante TX ..... – 23 –

6.1.2 – Preamp Control ..... – 23 –

6.1.3 – Dante TX Channel Status ..... – 23 –

6.2 – unDIO2x2+ Output 設定 ..... – 23 –

6.2.1 – Dante RX ..... – 23 –

6.2.2 – Volume ..... – 23 –

6.2.3 – Mute Control ..... – 23 –

6.2.4 – Assigned RX Channel ..... – 23 –

7 – unDX2IO の設定 ..... – 24 –

7.1 – unDX2IO Input 設定 ..... – 25 –

7.1.1 – Dante TX ..... – 25 –

7.1.2 – Preamp Control ..... – 25 –

7.1.3 – Dante TX Channel Status ..... – 25 –

7.2 – unDIO2x2+ Output 設定 ..... – 25 –

7.2.1 – Dante RX ..... – 25 –

7.2.2 – Assigned RX Channel ..... – 25 –

8 – unDX2IO+の設定 ..... – 26 –

8.1 – unDX2IO+ Input の設定 ..... – 27 –

8.1.1 – Dante TX ..... – 27 –

8.1.2 – Preamp Control (input 1 & 2 のみ) ..... – 27 –

8.1.3 – Pad Controls (input 3 & 4 のみ) ..... – 27 –

8.1.4 – Dante TX Channel Status ..... – 27 –

8.2 – unDX2IO+ Output 設定 ..... – 28 –

8.2.1 – Dante RX ..... – 28 –

8.2.2 – Volume Control ..... – 28 –

8.2.3 – Mute Control ..... – 28 –

8.2.4 – Assigned RX Channel ..... – 28 –

9 – unD3IO の設定 ..... – 29 –

9.1 – unD3IO Inputs 設定 ..... – 30 –

9.1.1 – Dante TX ..... – 30 –

9.1.2 – Preamp Control ..... – 30 –

9.1.3 – Input Selection ..... – 30 –

9.1.4 – Dante TX Channel Status ..... – 30 –

9.2 – unD3IO Outputs 設定 – 30 –
9.2.1 – Dante RX – 30 –
1.1.1 – Assigned RX Channel – 30 –
10 – unD6IO の設定 – 31 –
10.1 – unD6IO Inputs 設定 – 32 –
10.1.1 – Dante TX – 32 –
10.1.2 – Preamp Control – 32 –
10.1.3 – Selection Control – 32 –
10.1.4 – Dante TX Channel Status – 32 –
10.2 – unD6IO Outputs 設定 – 33 –
10.2.1 – Dante RX – 33 –
10.2.2 – Volume Control – 33 –
10.2.3 – Mute Control – 33 –
10.2.4 – Assigned RX Channel – 33 –
11 – unD6IO–BT の設定 – 34 –
11.1 – unD6IO–BT Inputs 設定 – 35 –
11.1.1 – Dante TX – 35 –
11.1.2 – Bluetooth® Friendly Name – 35 –
11.1.3 – Bluetooth® Status – 35 –
11.1.4 – Disable Pairing Button – 35 –
11.1.5 – Clear Pairings – 35 –
11.1.6 – Close Connection – 36 –
11.1.7 – Selection Control – 36 –
11.1.8 – Dante TX Channel Status – 36 –
11.2 – unD6IO–BT Outputs 設定 – 37 –
11.2.1 – Dante RX – 37 –
11.2.2 – Volume Control – 37 –
11.2.3 – Mute Control – 37 –
11.2.4 – Assigned RX Channel – 37 –
12 – unDX4I の設定 – 38 –
12.1 – unDX4I Input 設定 – 39 –
12.1.1 – Dante TX – 39 –
12.1.2 – Preamp Control – 39 –
12.1.3 – Dante TX Channel Status – 39 –
12.2 – unDX4I Output 設定 – 40 –
12.2.1 – Dante RX – 40 –

12.2.2 – Volume Control ..... – 40 –
12.2.3 – Mute Control ..... – 40 –
12.2.4 – Assigned RX Channel ..... – 40 –
13 – unD4I の設定 ..... – 41 –
13.1 – unD4I Inputs 設定 ..... – 42 –
13.1.1 – Dante TX ..... – 42 –
13.1.2 – Preamp Control ..... – 42 –
13.1.3 – Dante TX Channel Status ..... – 42 –
14 – unD4I-L の設定 ..... – 43 –
14.1 – unD4I-L Audio Config ..... – 44 –
14.1.1 – Dante TX ..... – 44 –
14.1.2 – Preamp Control ..... – 44 –
14.1.3 – Dante TX Channel Status ..... – 44 –
14.2 – unD4I-L Logic Monitor ..... – 45 –
14.2.1 – Logic Inputs ..... – 45 –
14.2.2 – Logic Outputs ..... – 45 –
14.3 – Event Messages / Modes ..... – 46 –
14.3.1 – Analog Trigged Mode ..... – 46 –
14.3.2 – Analog Timed Mode ..... – 47 –
14.3.3 – Digital Mode ..... – 47 –
14.3.4 – Event Message ..... – 48 –
14.4 – Logic Network Config ..... – 49 –
15 – unDNEMO の設定 ..... – 50 –
15.1 – Channel Configuration ..... – 51 –
15.2 – Device Configuration ..... – 52 –
15.2.1 – Button Backlight Brightness ..... – 52 –
15.2.2 – Display Brightness ..... – 52 –
15.2.3 – Mode Setup ..... – 52 –
15.2.3.1 – Enable All Input Mode ..... – 52 –
15.2.3.2 – Enable USB Mode ..... – 52 –
15.2.3.3 – Enable Line Mode ..... – 52 –
15.2.3.4 – Enable Dante TX Audio ..... – 52 –
15.2.3.5 – Enable Menu Mode User Access ..... – 52 –
16 – unDNEMO-BT の設定 ..... – 53 –
16.1 – Mono Channel Configuration ..... – 54 –
16.2 – Stereo Channel Configuration ..... – 54 –

16.3 – Device Configuration – 55 –
16.3.1 – Button Backlight Brightness – 55 –
16.3.2 – Display Brightness – 55 –
16.3.3 – Mode Setup – 56 –
16.3.3.1 – Enable All Input Mode – 56 –
16.3.3.2 – Enable USB Mode – 56 –
16.3.3.3 – Enable Aux In Mode – 56 –
16.3.3.4 – Enable Stereo – 56 –
16.3.3.5 – Enable Dante TX Audio – 56 –
16.3.3.6 – Enable Menu Mode User Access – 56 –
16.3.3.7 – Enable Front Panel Lock(Remote) – 56 –
16.4 – Bluetooth Setup – 57 –
16.4.1 – Clear Pairings – 57 –
16.4.2 – Bluetooth® Reset – 57 –
17 – unBT2A の設定 – 58 –
17.1 – Control Port Selection – 58 –
17.2 – Bluetooth® Configuration – 59 –
17.2.1 – Bluetooth® Friendly Name – 59 –
17.2.2 – Bluetooth® Status – 59 –
17.2.3 – Disable Pairing Button – 59 –
17.2.4 – Audio Output – 59 –
17.2.5 – Nominal Output Level – 59 –
17.2.6 – Activate Pairing Mode – 59 –
17.2.7 – Close Connection – 59 –
17.2.8 – Clear Pairings – 59 –
18 – unHX2D の設定 – 60 –
18.1 – HDMI Setup – 60 –
18.1.1 – HDMI Status – 60 –
18.1.2 – HDCP Enable – 60 –
18.1.3 – Force HPD On – 60 –
18.1.4 – EDID Management – 61 –
18.2 – Input Setup – 61 –
18.3 – Output Setup – 61 –
18.4 – Internal Routing Matrix – 62 –
18.5 – Dante Subscription Status – 62 –
19 – Synapse D32i の設定 – 63 –

19.1 – Bank Pad Control ..... – 63 –

19.2 – Mute All On/Off ..... – 63 –

19.3 – Front Panel Lock ..... – 63 –

19.4 – Dante TX Channel Name ..... – 63 –

19.5 – Mute ..... – 63 –

1 - 概要

unIFY Control Panel は AtteroTech デバイスを監視、設定するためのシンプルなソフトウェアです。ネットワーク上のデバイスを検出し、自動的にリスト表示します。

デバイスが検出されると、unIFY はそのデバイスの詳細を表示する事ができます。 AtteroTech デバイスでは、unIFY を使用して、ゲインやファンタム電源などを設定します。

本マニュアルは、AtteroTech unify Control Panel を使用し、ネットワーク上のデバイスを監視、設定する方法に関するガイドを記しています。

1.1 - unIFY Control Panel の使い方

ソフトウェアの使用に必要な手順は下記の通りです。

① アプリケーションをインストールしてください。

② アプリケーションを実行してください。(3 – アプリケーションの機能 – 参照)

③ ネットワークアダプタを選択します。(3.2.2 – ネットワークインターフェイス – 参照)

2 - ソフトウェアのインストール

※インストール前に一読ください。

2.1 - システム要件

・Windows7 / 8 / 8.1 / 10 (32bit、64bit)

・有線イーサネットネットワークインターフェイス

2.2 - インストール方法

本ソフトウェアは弊社 Web サイトからダウンロードする事ができます。

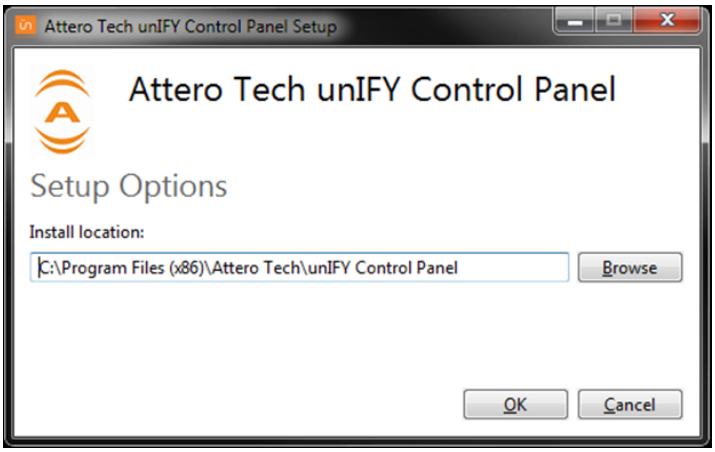
http://www.audiobrains.com/download/atterotech/

アプリケーションをインストールするには.exe ファイルをダブルクリックしインストールをスタートします。

インストール中に Cancel ボタンを押すとインストールを停止する事ができます。

unIFY Control Panel は C:¥Program Files(x86)¥Attero Tech¥unifY Control Panel にインストールされます。

インストール場所は Options ボタンをクリックすると変更できます。

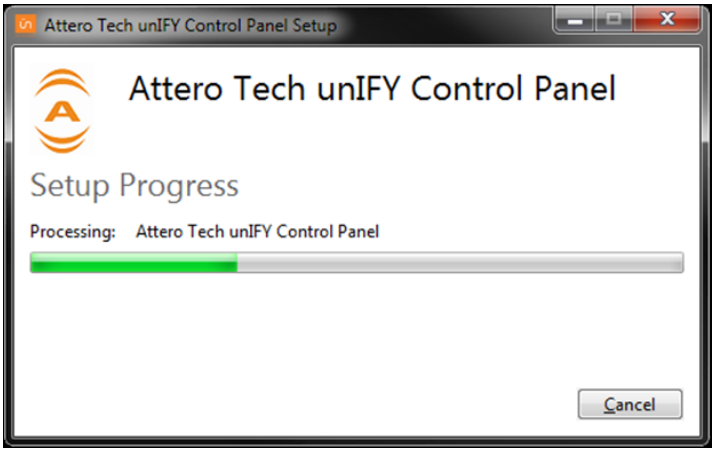


Install location:にインストール場所を入力するか Browse ボタンをクリックし参照します。

インストール場所を変更する場合は、OK を、変更しない場合は Cancel をクリックします。

Install ボタンを有効にするには、使用許諾契約書(英文)を読み、同意する場合は I agree to…のボックスにチェックを入れてください。 その後 Install ボタンをクリックしインストールを開始します。

※この時 Windows がユーザーアクセスアカウントウインドウをポップアップ表示する場合があります。
　インストールを続行するには Yes を選択してください。



ファイルのコピーを始め、進行状況を表示します。

Setup Successful と表示されインストールが終了したら Close をクリックします。

このインストーラーは、さまざまなショートカットを作成します。

すべてのアイコンは、スタートメニュー ＞ すべてのプログラム ＞ AtteroTech ＞ unIFY Control Panel の中にあります。

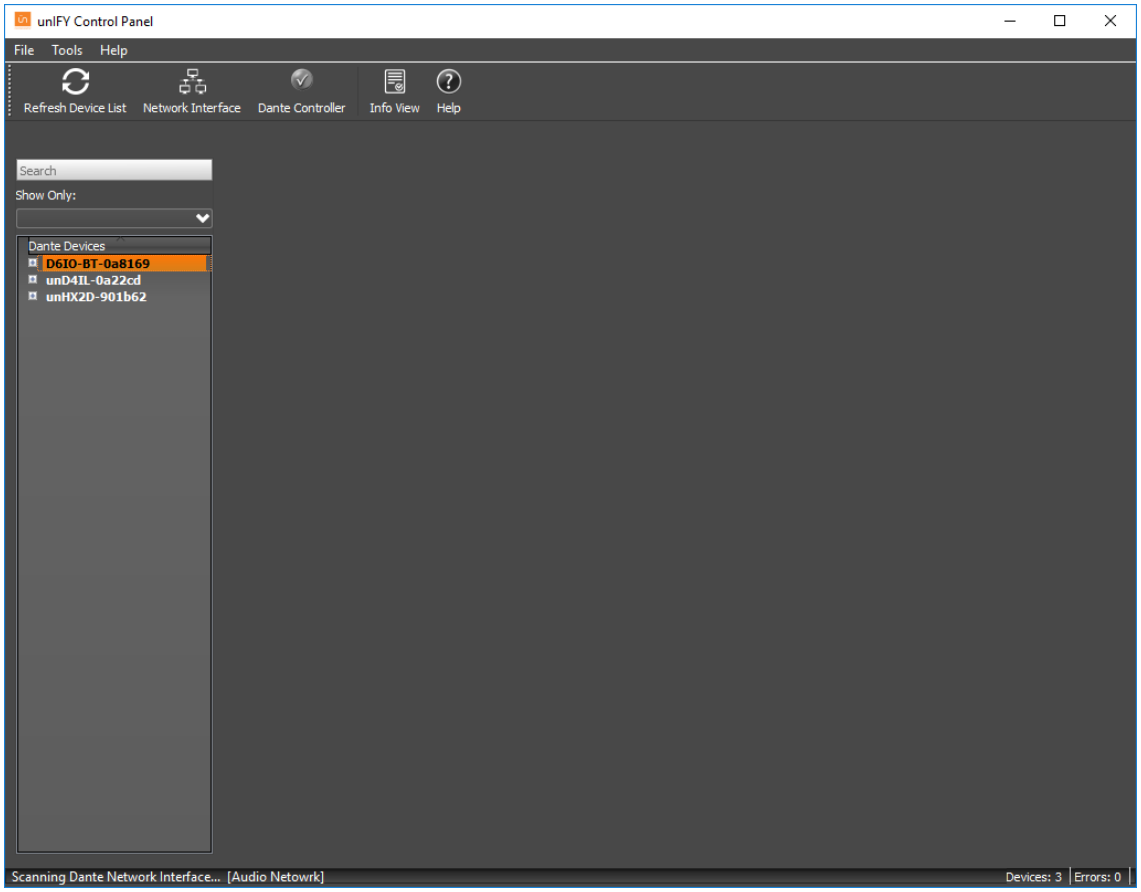
3 - アプリケーションの機能

このアプリケーションは下記の項目で構成されています。

・メニュー、ツールバー

・デバイスリスト

・コンフィグレーションビュー



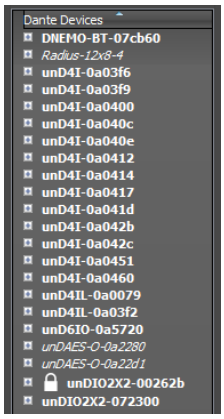
一番上にメニューとツールバーがあり、様々な機能にアクセスできます。

アプリケーションウィンドウの左側にはデバイスリストがあり、検出されたデバイスとその現在の状態がリスト表示されます。

アプリケーションのメインウィンドウでは機器毎の様々なパラメーターをコントロールします。

下部のステータスバーでは、ステータスメッセージ、エラー、警告を表示します。

3.1 - デバイスリスト



デバイスリストには指定したネットワークインターフェイスで検出された全てのメーカーのデバイスが表示されます。赤色で表示されているデバイスはそのデバイスとの通信に問題がある事を示しています。(デバイスがネットワークに接続されていない可能性があります。)通信の成功したデバイスはイタリック体の白文字で表示されます。拡張設定機能をもった Atterotech デバイスは太字の白文字で表示されます。

デバイスリストは検索ボックスまたは Show Only フィルタオプションを使用しフィルタリングできます。検索ボックスは、検索ボックスに入力された文字とリスト内のデバイス名の一部が一致しているもののみを表示します。検索ボックスは大文字と小文字を区別します。

Show Only フィルタは、特定のタイプの製品のみを表示する事ができます。

3.1.1 - Dante and Parameter Locks

V3.10 ファームウェアでは Dante デバイスは Dante パラメーターをロックする機能を持っています。(この機能の詳細については Dante Controller のヘルプまたは Audinate の Web サイトを参照してください。)ロック状態は Dante Controller からのみロックまたはロック解除する事ができます。

一部の Atterotech デバイスではファンタム電源やゲインなどの Dante 以外の機能へのアクセスを制限するパラメーターロック機能もサポートされています。

デバイスの Dante ロック、パラメーターロックが有効の場合は名前の横に小さな南京錠アイコンが表示されます。

※これらのロック機能はプリセットのロードや保存、ファームウェアの更新などの機能を使用できるかどうかにも影響します。

3.1.2 - チャンネルネーム

デバイス名をダブルクリックするかデバイス名の左側にある小さな＋アイコンをクリックする事で Dante オーディオチャンネルを表示または非表示にする事ができます。送信チャンネルには[TX]が表示され、受信チャンネルには[RX]が表示されます。

デバイス名をダブルクリックするかデバイス名の左側にある小さなーアイコンをクリックする事でチャンネル名を再度閉じる事ができます。

チャンネル名が表示されている時はチャンネル名を変更する事ができます。

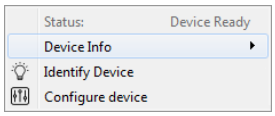
チャンネル名を右クリックし Rename メニューを選択してください。

※Dante のオーディオルーティングはデバイス名とチャンネル名に依存しています。

そのためチャンネル名を変更するとサブスクリプション(パッチ)が失われオーディオを失う可能性があります。

その場合は変更したオーディオの新しいチャンネル名を使用し再設定する必要があります。

3.1.3 - デバイスコンテキストメニュー



デバイスを右クリックするとデバイスコンテキストメニューが開きます。

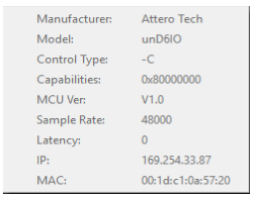
[Status:]はデバイスステータスを示し通常診断目的で使用します。

正しく動作している AtteroTech デバイスは[Device Ready]と表示されます。

[Device Info]メニューではデバイスに関する情報のサブメニューがあります。

表示される情報は製造元(manufacturer)、モデル名(Model)、コントロールタイプ(control type)、MCU バージョン、サンプリングレート、レイテンシー、IP アドレス、MAC アドレスです。

表示される情報は機器により全ての項目が表示されるわけではありません。

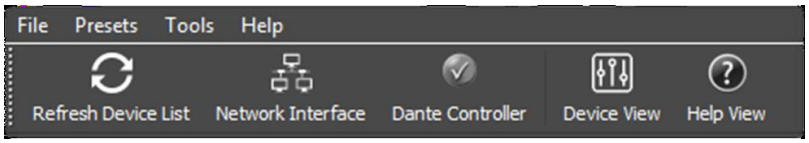


[Identify Device]をクリックするとネットワーク上のデバイスを視覚的に探す事ができます。

この機能はステータス LED や電源 LED、フロントパネルディスプレイ等を 5 秒間点滅させ機器の識別を助けます。

[Configure Device]をクリックすると選択したデバイスの設定画面を表示します。詳しくは4.デバイス設定の項をご参照ください。

3.2 - メニュー＆ツールバー機能



3.2.1 - Refresh Device List

Refresh Device List 機能はツールバーのボタンもしくは[File]メニューからアクセスでき、現在のデバイスリストを更新します。

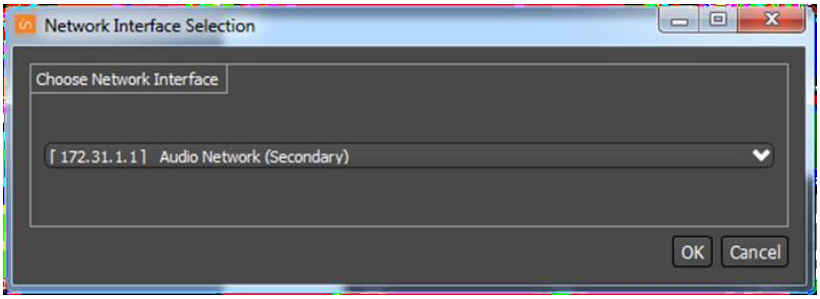
選択された任意のネットワークアダプタに接続されているデバイスのみを検出します。

※デバイスを検出しているにも関わらず全てのデバイスが赤色の文字で表示されている場合はネットワークの競合を示し、

選択されたネットワークインターフェイスカードとデバイス間の IP アドレス設定が一致していない可能性があります。

3.2.2 - Network Interface

※Windows では複数の IP アドレスを1つのネットワークアダプタに設定する事ができます。ただし Dante Controller や unIFY Control Panel ではこの機能はサポートされていません。Dante ネットワークに接続するために使用するネットワークアダプタは動的設定で IP アドレスを取得するか、静的 IP アドレスに設定する必要があります。unIFY Control Panel や、Dante Controller でデバイスを見つけるために、どのネットワークインターフェイスを使用するか設定する必要があります。[File]メニューの[Change Networks]もしくは、[Network Interface]ボタンから設定します。



ネットワークアダプタが選択されると、選択されたネットワークアダプタを記憶しそれ以降の使用時に設定を必要としません。

※unIFY Control Panel では有線イーサネットインターフェイスの選択のみが許可されています

3.3 - Dante Controller

通常 Dante ネットワークのオーディオルーティングや Dante ネットワークの設定には Audinate の Dante Controller ソフトウェアを使用することをお勧め致します。[Dante Controller]ボタンまたは [File]メニューの [Dante Controller]をクリックすると、unIFY Control Panel 上から Dante Controller を直接起動することができます。このオプションを初めて使用する場合のみインストールされている Dante Controller ソフトウェアの場所を尋ねられます。

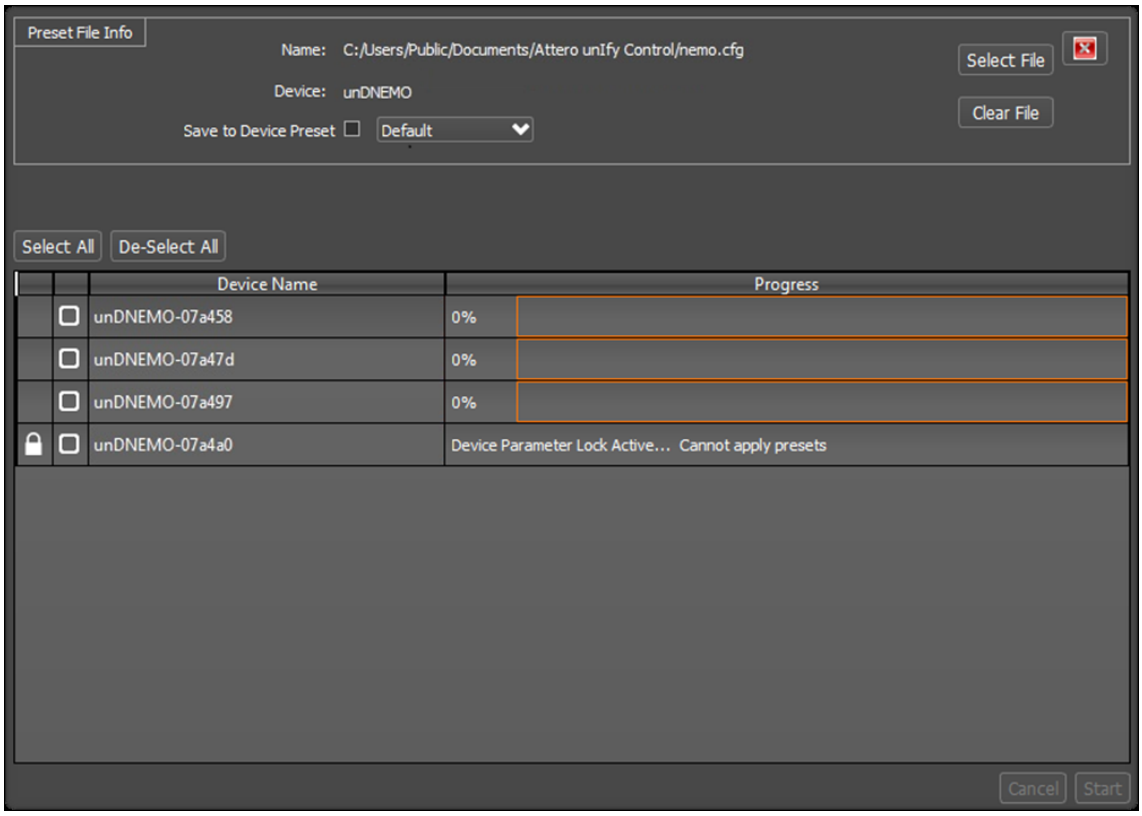
Dante Controller アプリケーションがコンピュータにインストールされていない場合は、次のリンクからダウンロードできます。

https://www.audinate.com/products/software/dante-controller

3.4 - Multi-Device Preset Load

多数の AtteroTech デバイス使用しているシステムでのデバイス構成を簡単にするために、Multi-Device Preset Load 機能を使用すると一つのプロセスで複数のデバイスのプリセットを呼びだす事ができます。

この機能は[Tool]メニューからアクセスする事ができます。



[Multi-Device Preset Load]が選択されると、メインウインドウに設定画面が表示されます。

.cfg ファイルを呼びだすには[Select File]ボタンを選択します。(.cfg ファイルの作成方法は 4.2.1.2 をご参照ください。)ファイルが呼び出されると、そのプリセットファイルを受け入れる事ができるデバイスを識別します。

それぞれのデバイスのチェックボックスを選択しデバイスを選択します。[Select All]ボタンを押すと、全てのデバイスを選択する事ができます。

必要なデバイスの選択が完了したら[Start]ボタンを押してプリセットの呼び出しを開始します。

プリセットの呼び出しを行わない場合は[Close]ボタンを押してください。

※パラメーターロックが有効なデバイスには南京錠アイコンが表示され、進行状況バーはデバイスがロックされている事を示すテキストに置き換えられます。

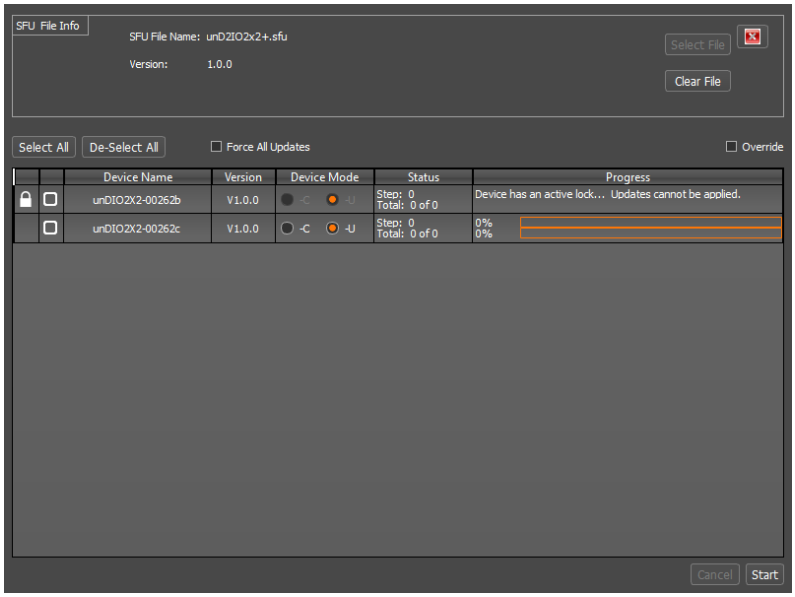
3.5 - Smart Firmware Updater

Smart Firmware Updater 機能にアクセスするには[Tool]メニューから Smart Firmware Updater を選択します。

アップデーターを使用するには、まず[Select File]ボタンを押し、ファームウェアパッケージを選択するためのウインドウ開きます。

この機能では.sfu 形式のファームウェアパッケージを使用します。

ファイルが選択されると、選択されたパッケージと一致するデバイスを検索しアップデートの必要の有無も決定します。



検出されたデバイスリストには、以下の情報が表示されます。

・デバイス名

・プロダクトバージョン

・デバイスモード（デバイスモードを-C と-U から選択しアップデートする事ができます。）

・ステータス（アップデート完了までのステップ数を表示します。）

・進行状況（上部バーは現在のステップの進行状況、下部バーはアップデート全体の進行状況を示します。）

アップデートを開始するにはアップデートするデバイスのチェックボックスを選択し[Start]ボタンをクリックします。

Smart Firmware Updater は更新が必要なデバイスの適切な部分のみをアップデートします。

この機能を無効にし完全なアップデートを行う場合は[Force All Updates]のチェックボックスを選択してください。

※Dante ロック、パラメーターロックのいずれかがオンの状態の場合はデバイス横に南京錠アイコンが表示され、進行状況バーはデバイスがロックされている事を示すテキストに置き換えられます。

ロックが解除されるまでアップデートする事ができません。

[Cancel]ボタンを押す事でいつでもアップデートを停止する事ができますが、デバイスのロックアップを防ぐためにアップデートプログラム全体がキャンセルされるまでアップデートは継続します。

もしもアップデート中にデバイスに障害が発生してしまった場合は全てのアップデート完了後に赤字で表示されます。

3.6 - Help

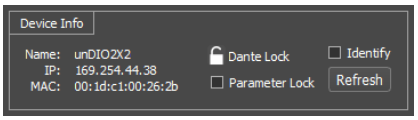
ヘルプメニューは unIFY Control Panel ソフトウェアのバージョンとプラグインのバージョンとソフトウェアヘルプにアクセスする事ができます。バージョン情報は[Tool]メニューからしかアクセスできませんが、ソフトウェアヘルプへはツールバーの[Help View]ボタンからもアクセスする事ができます。

※ソフトウェアヘルプは pdf 形式のため、表示するためには適切なリーダーが必要です。

4 - デバイス設定

unIFY Control Panel ソフトウェアの主な機能は AtteroTech 製品のパラメータの設定です。

4.1 - Device Info



Device Info パネルはメインウインドウ上部に表示され、通常はデバイスのイメージが表示されています。Identify 機能を有効、無効にするチェックボックスもあります。デバイスリストのコンテキストメニューの Identify 機能とは異なり、この Identify 機能は手動で無効にしたりデバイスの電源を入れなおす、リセットする、等を実行するまで点滅を続けます。

・Dante Lock ： Dante Lock のステータスは南京錠アイコンで表示されます。アイコンとテキストが表示されていない場合、そのデバイスはこの機能をサポートするファームウェアではありません。（※ファームウェアのアップデートは全ての Atterotech デバイスでこの機能をサポートしています。）

Dante Lock が有効な場合、オーディオルーティングやネットワークの設定を変更する事はできません。

Dante Lock は Dante Controller からのみ設定する事ができます。

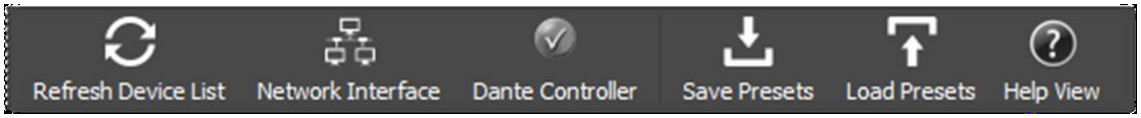
・Parameter Lock ： パラメーターロックがオンの場合、ゲインやファンタム電源などの設定、ファームウェアの更新、プリセットロード機能がロックされ変更する事はできません。ただし、DanteLock がオンの場合、パラメーターロック自体がロックされ変更する事ができなくなります。この場合パラメーターロックを解除するにはまず Dante ロックを解除する必要があります。

・Refresh ： [Refresh]ボタンは表示中のデバイスの設定表示を再読み込みするために使用します。

これはデバイスと通信している外部システムなどによって、デバイス設定が unIFY Control Panel によって読み取られた後に変更された場合に有効です。

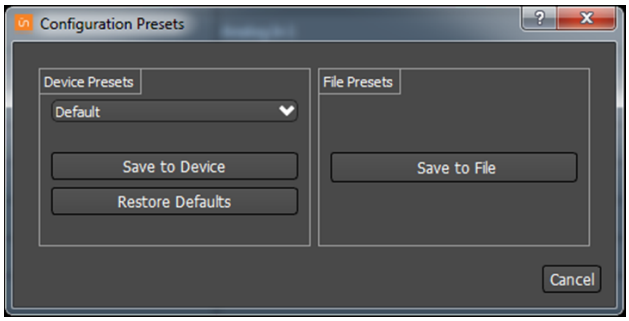
4.2 - Preset 設定

ほとんどのデバイスには PC 上のファイルまたはデバイス上のメモリから以前に保存したプリセットを呼びだす為の機能があります。デバイスがプリセット機能に対応している場合、[Save Presets]ボタンと[Load Presets]ボタンがツールバーに追加されます。



4.2.1 - Save Presets

[Save Presets]ボタンを押すとプリセットを保存するためのウインドウが開きます。



4.2.1.1 – Save Device Presets

現在の設定を選択したプリセットに保存する事ができます。ドロップダウンリストから保存先を選択し{Save to Device}を選択します。

全ての AtteroTech デバイスでは、プリセット 0 を使用し、デフォルト設定を保存します。

デフォルト設定は電源投入時に呼び出されます。

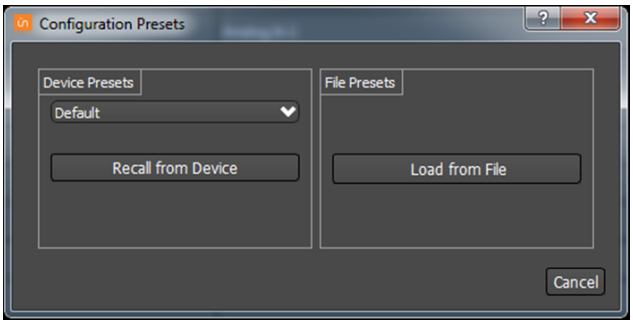
※[Restore Defaults]ボタンを押すと、保存された設定を消去し工場出荷時に設定を戻す事ができます。

4.2.1.2 – Save File Presets

現在の設定をファイルに保存することもできます。作成されたファイルを使用し複数のデバイスに同じ設定を適用する事もできます。(詳しくは 3.4 Multi-Device Preset Load をご参照ください。)

4.2.2 - Load Presets

[Load Presets]ボタンを押すとプリセットを呼びだすためのウインドウが開きます。



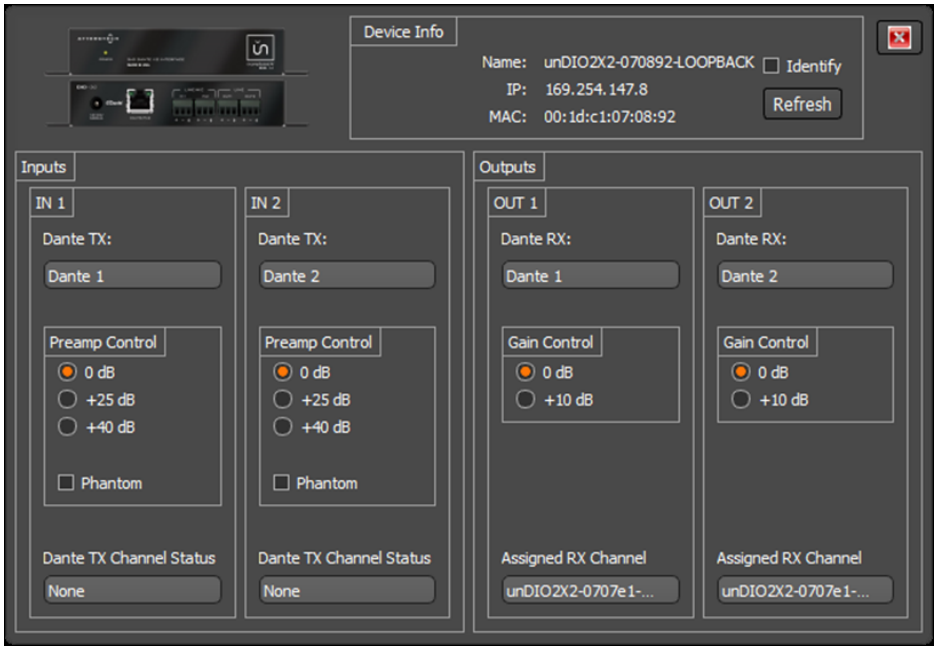
4.2.2.1 – Recall Device Presets

デバイス本体に保存されたプリセットを呼び出します。ドロップダウンリストを使用し希望するプリセットを選択し[Recall from Device]ボタンをクリックします。

4.2.2.2 – Recall File Presets

以前に保存したプリセットファイルを読み込む場合は[Load from File]を押してください。

5 - unDIO2x2 の設定



unDIO2x2 の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

5.1 - unDIO2x2 Input 設定

5.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

5.1.2 - Preamp Control

マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

5.1.3 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

5.2 - unDIO2x2 Output 設定

5.2.1 - Dante RX

このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

5.2.2 - Gain Control

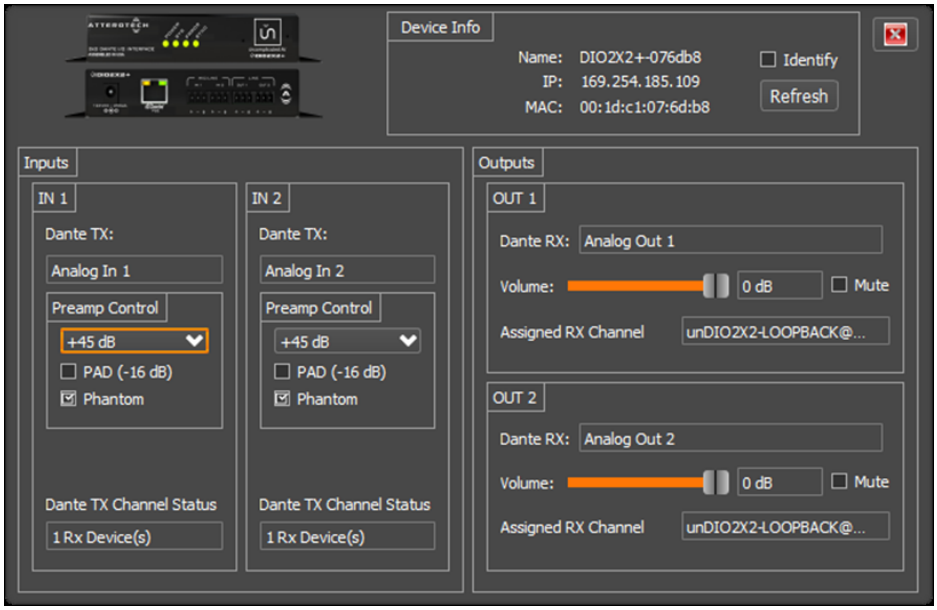
出力ゲインを調節する事ができます。

5.2.3 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

6 - unDIO2x2+の設定



unDIO2x2+の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

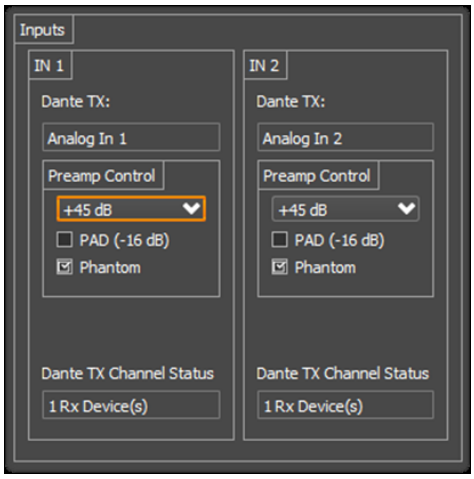
・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

6.1 - unDIO2x2+ Input 設定



6.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するには、リストビューか Dante Controller から編集します。

6.1.2 - Preamp Control

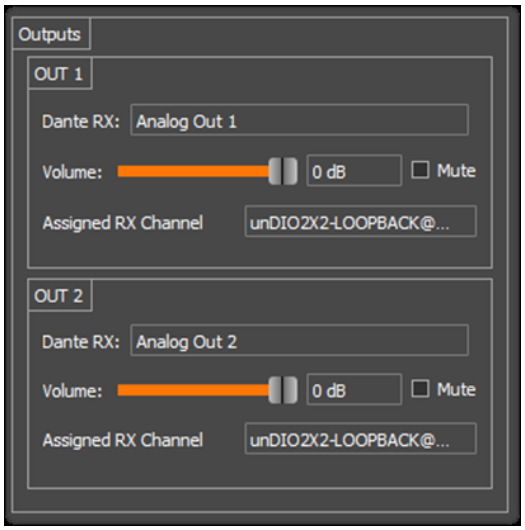
マイク入力ゲインの設定と-16dB パッド、ファンタム電源を設定する事ができます。入力ゲインは 0dB、+15dB、+30dB、+45dB から選択します。

6.1.3 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

6.2 - unDIO2x2+ Output 設定



6.2.1 - Dante RX

このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

6.2.2 - Volume

出力ボリュームを 0dB～-60dB の間で調節する事ができます。

6.2.3 - Mute Control

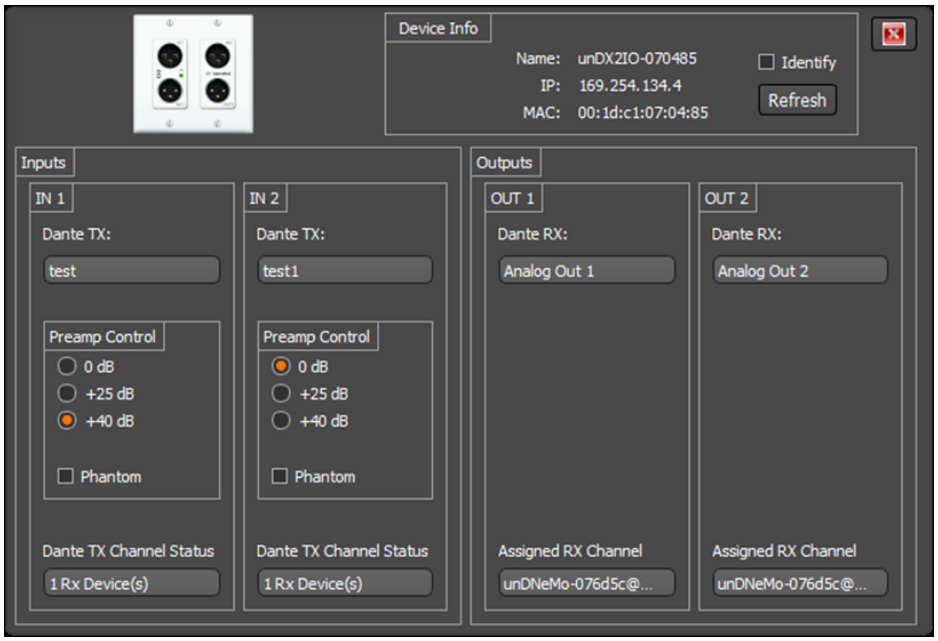
この機能を使用すると対応するアナログ出力をミュート/ミュート解除する事ができます。

6.2.4 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

7 - unDX2IO の設定



unDX2IO の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

7.1 - unDX2IO Input 設定

7.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

7.1.2 - Preamp Control

マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

7.1.3 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

7.2 - unDIO2x2+ Output 設定

7.2.1 - Dante RX

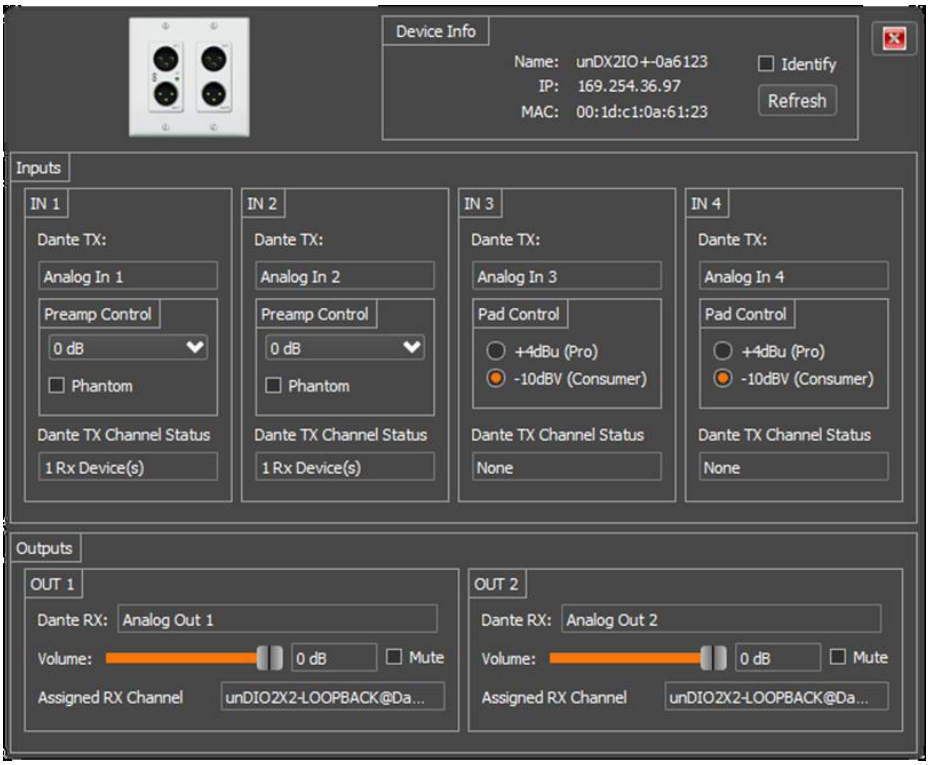
このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

7.2.2 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

8 - unDX2IO+の設定



unDX2IO+の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

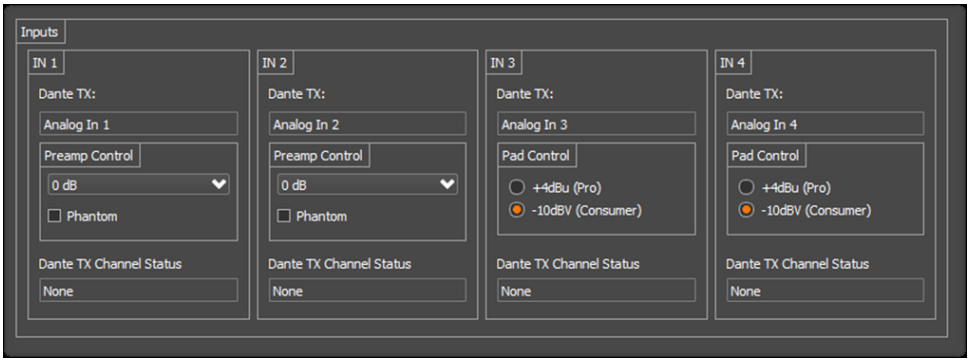
・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

8.1 - unDX2IO+ Input の設定



8.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

8.1.2 - Preamp Control (input 1 & 2 のみ)

マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

8.1.3 - Pad Controls (input 3 & 4 のみ)

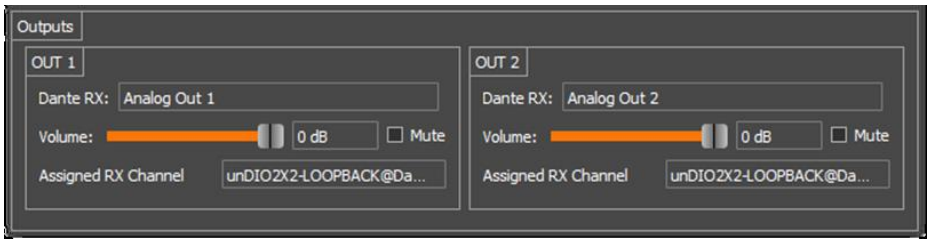
インプット3と4のプリアンプゲインを+4dBu、−10dBV から選択する事ができます。

8.1.4 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

8.2 - unDX2IO+ Output 設定



8.2.1 - Dante RX

このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

8.2.2 - Volume Control

出力ボリュームを 0dB～-60dB の間で調節する事ができます。

8.2.3 - Mute Control

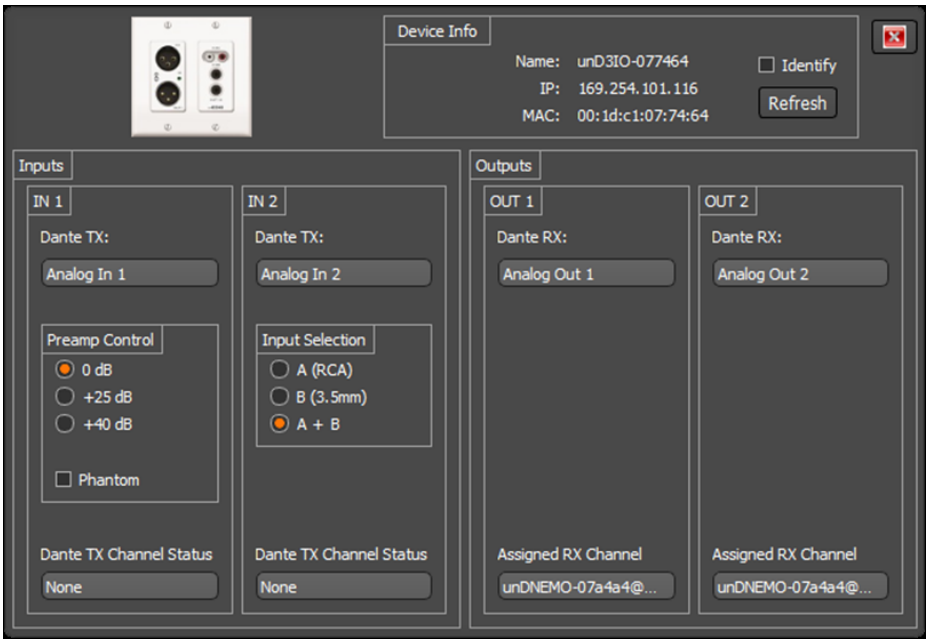
この機能を使用すると対応するアナログ出力をミュート/ミュート解除する事ができます。

8.2.4 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

9 - unD3IO の設定



unD3IO の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

9.1 - unD3IO Inputs 設定

9.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

9.1.2 - Preamp Control

マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

9.1.3 - Input Selection

※unD3IO の Dante 送信チャンネルは2chあります。

1ch目は XLR 入力、2ch目はこの機能で選択されたステレオライン入力のモノラルミックスになります。

9.1.4 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

9.2 - unD3IO Outputs 設定

9.2.1 - Dante RX

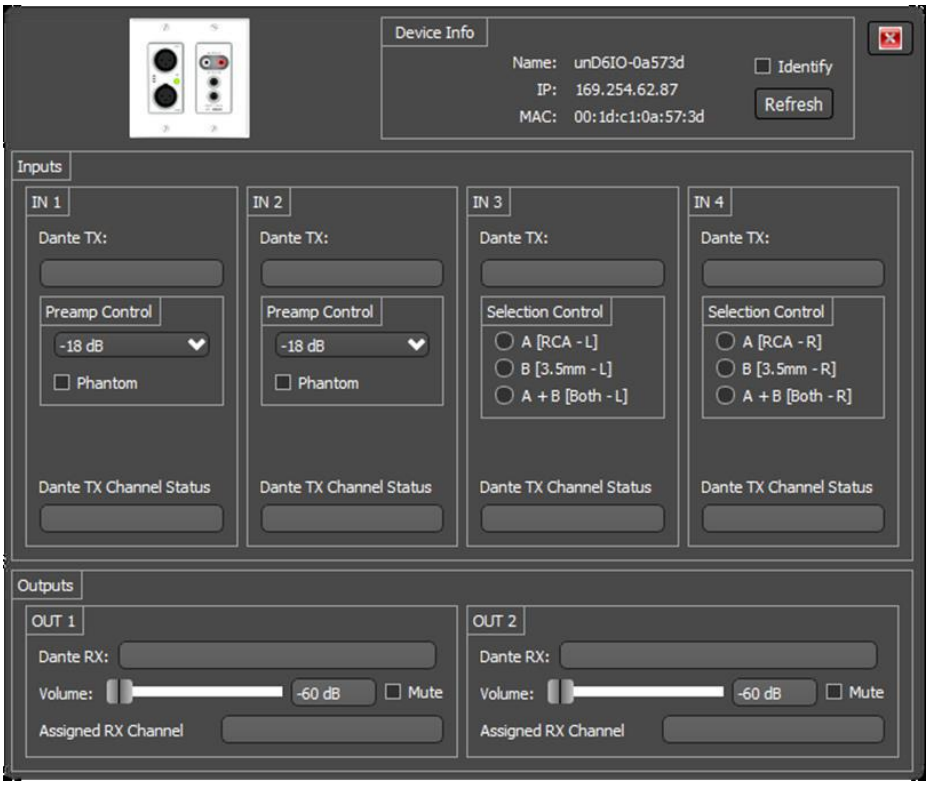
このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

1.1.1 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

10 - unD6IO の設定



unD6IO の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

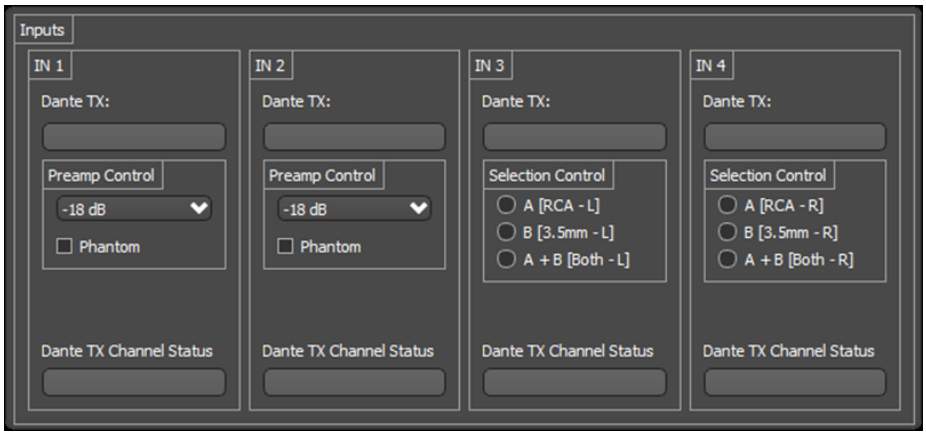
・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

10.1 - unD6IO Inputs 設定



10.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

10.1.2 - Preamp Control

マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

10.1.3 - Selection Control

unD6IO は Dante 送信チャンネル3，4に接続する入力選択オプション機能を持っています。

入力を選択するにはチェックボックスを選択します。

選択可能なオプションは下記の通りです。

・Input A (RCA Inputs)

・Input B (3.5mm TRS Input)

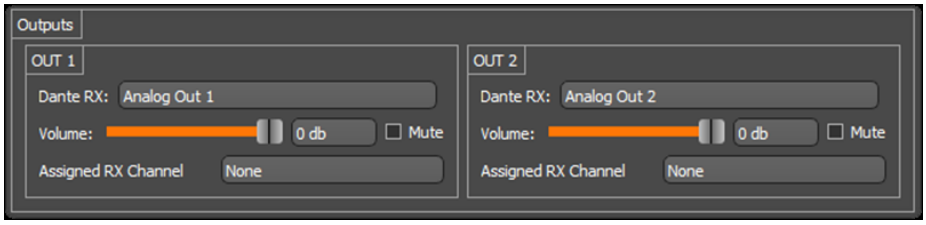
・A+B (両方のミックス)

10.1.4 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

10.2 - unD6IO Outputs 設定



10.2.1 - Dante RX

このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

10.2.2 - Volume Control

出力ボリュームを 0dB～-60dB の間で調節する事ができます。

10.2.3 - Mute Control

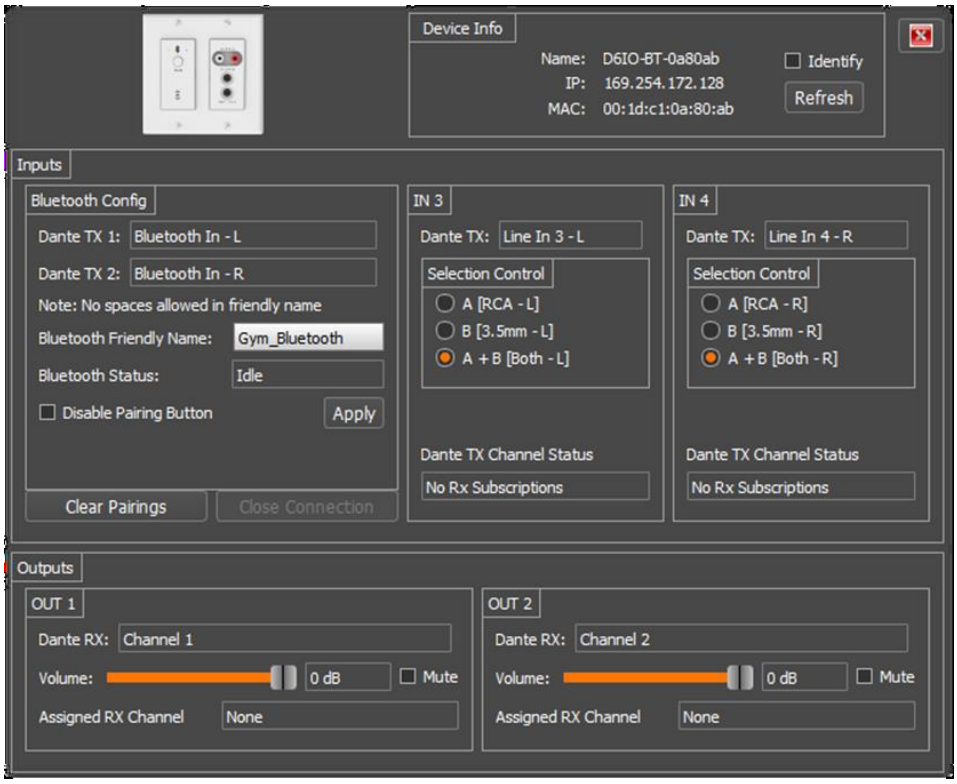
この機能を使用すると対応するアナログ出力をミュート/ミュート解除する事ができます。

10.2.4 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合(None)と表示されます。

11 - unD6IO-BT の設定



unD6IO-BT の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

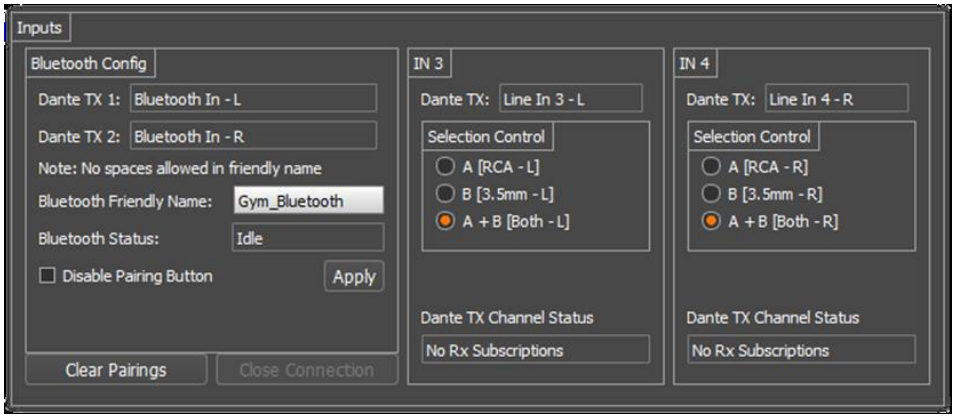
・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

11.1 - unD6IO-BT Inputs 設定



11.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

11.1.2 - Bluetooth® Friendly Name

接続しようとする Bluetooth®機器に表示される Bluetooth®名を編集する事ができます。

Bluetooth 名を編集すると複数の unD6IO-BT デバイスが近接して配置されていたとして、容易な識別を可能にし接続ミスを防ぎます。

11.1.3 - Bluetooth® Status

Bluetooth®インターフェイスの現在のステータスを確認する事ができます。メッセージの一覧は下記の通りです。

・Idle ： アイドル状態

・Discoverable ： 検索可能状態

・Connected ： 接続済み

※Bluetooth®関係のパラメータの変更は、ステータス表示が Idle 状態の時に限ります。

11.1.4 - Disable Pairing Button

このボックスにチェックを入れるとデバイス本体のペアリングスイッチが無効になります。

11.1.5 - Clear Pairings

この機能はペアリングされたデバイスをクリアします。

この機能は一般的には使用しませんが接続の問題を解決するのに役に立つ事があります。

11.1.6 - Close Connection

この機能は現在接続中の Bluetooth®接続をリモートで終了する事ができます。

この機能はステータス表示が Connected の時のみ機能します。

11.1.7 - Selection Control

unD6IO-BT は Dante 送信チャンネル3，4に接続する入力選択オプション機能を持っています。

入力を選択するにはチェックボックスを選択します。

選択が可能なオプションは下記の通りです。

・Input A (RCA Inputs)

・Input B (3.5mm TRS Input)

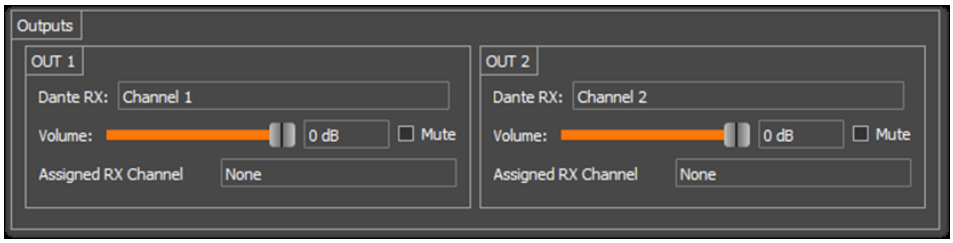
・A+B (両方のミックス)

11.1.8 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

11.2 - unD6IO-BT Outputs 設定



11.2.1 - Dante RX

このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

11.2.2 - Volume Control

出力ボリュームを 0dB～-60dB の間で調節する事ができます。

11.2.3 - Mute Control

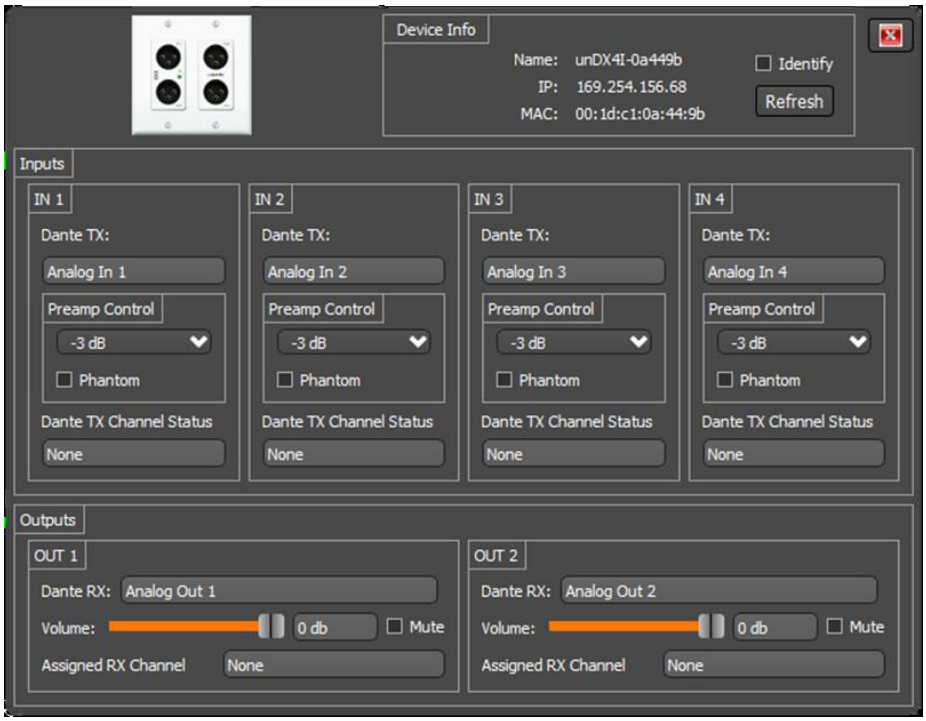
この機能を使用すると対応するアナログ出力をミュート/ミュート解除する事ができます。

11.2.4 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合(None)と表示されます。

12 - unDX4I の設定



unDX4I の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

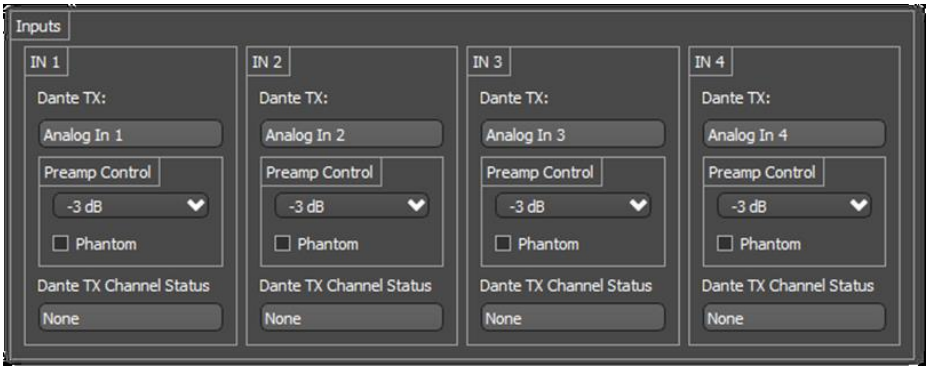
・Inputs

・Outputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

12.1 - unDX4I Input 設定



12.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

12.1.2 - Preamp Control

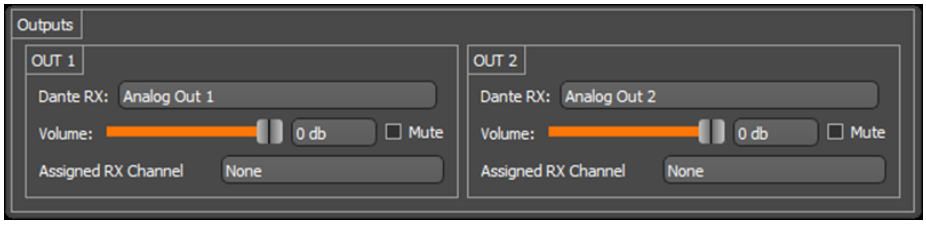
マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

12.1.3 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合(None)と表示されます。

12.2 - unDX4I Output 設定



12.2.1 - Dante RX

このテキストボックスには Dante 受信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

12.2.2 - Volume Control

出力ボリュームを 0dB～-60dB の間で調節する事ができます。

12.2.3 - Mute Control

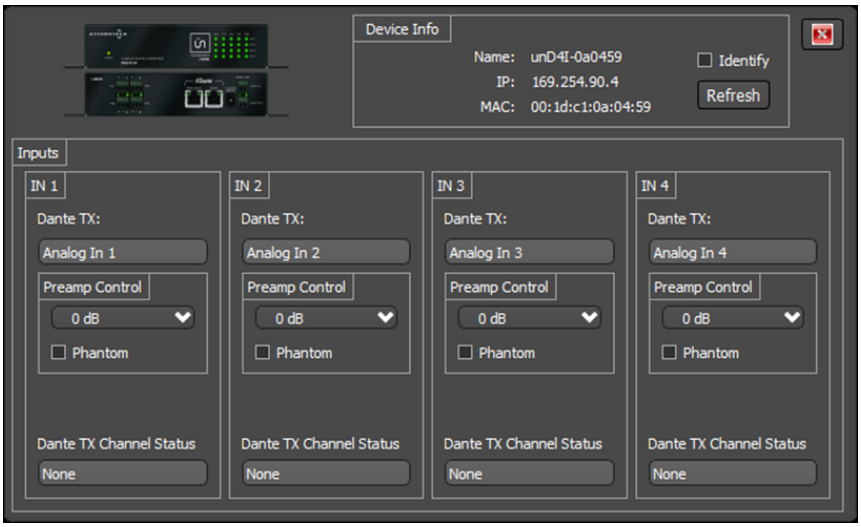
この機能を使用すると対応するアナログ出力をミュート/ミュート解除する事ができます。

12.2.4 - Assigned RX Channel

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 送信デバイス名とそのチャンネル名が表示されます。

サブスクリプションされていない場合(None)と表示されます。

13 - unD4I の設定



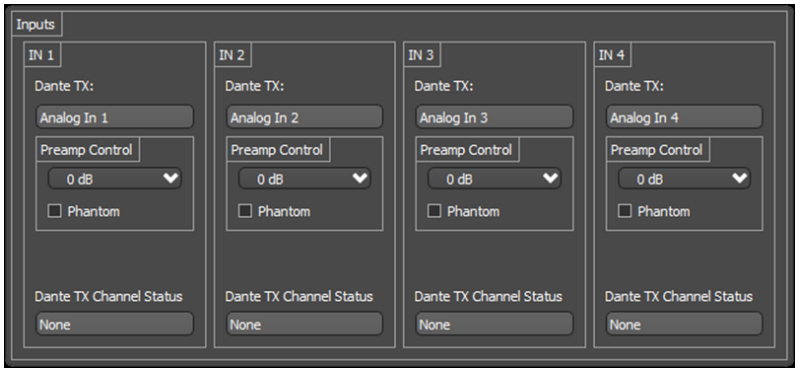
unD4I の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

・Inputs

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

13.1 - unD4I Inputs 設定



13.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

13.1.2 - Preamp Control

マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

13.1.3 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

14 - unD4I-L の設定

unD4I-L の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

・Audio Config

・Logic Monitor

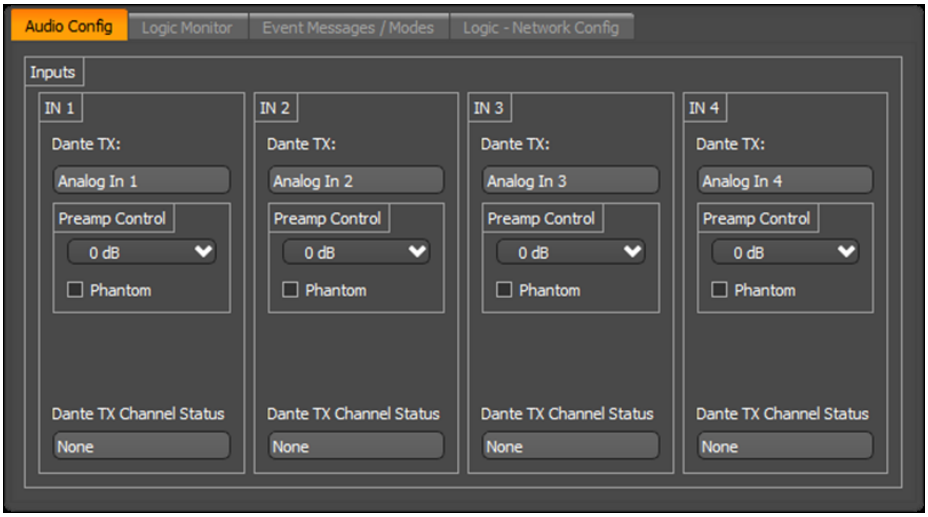
・Event Messages / Modes

・Logic – Network Config

※デバイスの設定はデバイスの電源が再投入されるまで維持されます。

設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用し、プリセット 0 に保存する必要があります。

14.1 - unD4I-L Audio Config



14.1.1 - Dante TX

このテキストボックスには Dante 送信チャンネルの名前が表示されます。

チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

14.1.2 - Preamp Control

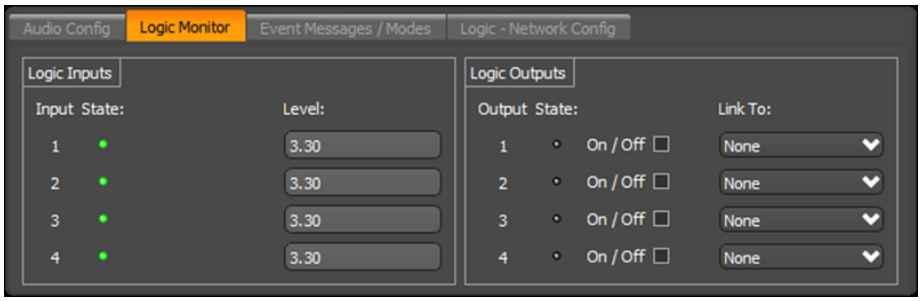
マイク入力ゲインの設定とファンタム電源を設定する事ができます。

14.1.3 - Dante TX Channel Status

このテキストボックスにはサブスクリプションされている Dante 受信デバイスの数が表示されます。

サブスクリプションされていない場合{None}と表示されます。

14.2 - unD4I-L Logic Monitor



14.2.1 - Logic Inputs

Logic Inputs 画面はアクティブなロジック入力を表示します。

ロジック入力がアクティブ(ハイ)の場合は State 部の LED 表示が点灯します。同様にアナログ電圧レベルは Level 部に表示されます。

ロジック入力にスイッチなどが接続されている場合は接点がメイクすると LED 表示が消灯します。

ポテンショメータを接続し連続した電圧制御の場合は Level 部では現在の電圧を表示します。

14.2.2 - Logic Outputs

Logic Outputs 画面は対応するロジック出力の状態を LED 表示します。出力がオンになると LED 表示が緑色に点灯します。

On / Off ボックスにチェックを入れるとロジック出力をテストする事ができます。出力をクリアするにはチェックを外します。

[Link To]コントロールを使用すると任意のロジック入力とロジック出力をリンクする事ができます。

ドロップダウンリストからトリガーとするチャンネルを選ぶことができます。

14.3 - Event Messages / Modes

このページではロジック入力ごとにトリガーモードとイベントメッセージを設定する事ができます。

各入力は以下のモードに対応しています。

・Digital

・Analog Triggered

・Analog Timed

全てのモードのデフォルトメッセージスタイルは ASCII 形式です。

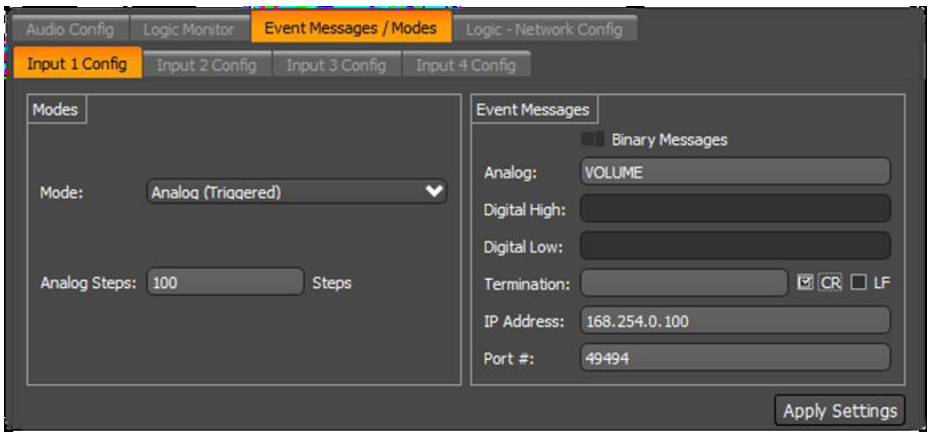
デジタルモードでは[Binary Messages]にチェックを入れるとメッセージフォーマットが 16 進数に変更されます。

バイナリメッセージを入力するにはスペースで区切られた 16 進数をメッセージに入力します。

14.3.1 - Analog Trigged Mode

アナログトリガーモードでは unD4I-L は GPI 入力のアナログ電圧を 0-4095 の範囲で細分化し[Analog Steps]ボックスに入力された数に分割します。これは2つのステップから最大 256 のステップに細分化する事が可能です。

最後に読み取られた値と現在の入力電圧のステップ値が変化したかを判断し、ステップが異なる場合は現在のステップレベルを含むイベントメッセージを出力します。



上記の図の通り設定した場合を例とします。

[Analog Steps]の設定は 100 なので、各ステップのサイズは 4096/100=40.96 となり、これは 41 に繰り上げられます。

接続されたボリュームの値が 150 から開始する場合、123(41×3)と 164(41×4)の間にあるのでステップ3となります。

GPI の電圧がその範囲にとどまる間は何も出力されません。

例えば値が 164 を超えて 170 に増加した場合はステップ4になり、設定された IP アドレス 169.254.0.100 のポート 49494 に指定されたメッセージ[VOLUME]に現在のステップレベルが追記された「VOLUME4<CR>」というメッセージが送信されます。

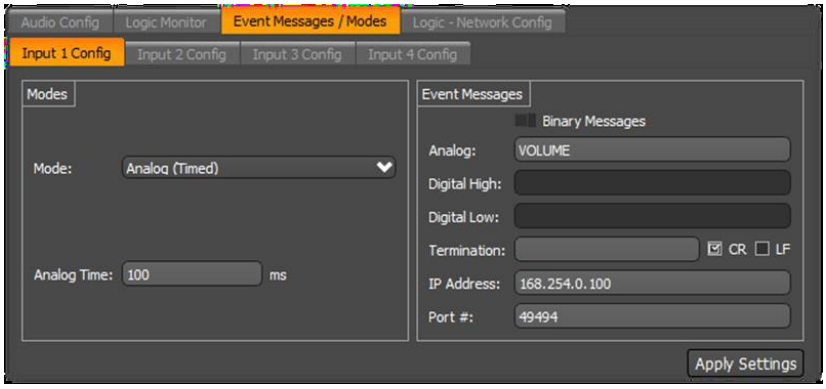
値が 100 に低下した場合、今度は前回のステップ値 123(41×3)を下回りステップ2になり「VOLUME2<CR>」というメッセージが送信されます。

アナログトリガーモードの一般的な使用例は段階的な音量調整です。

14.3.2 - Analog Timed Mode

アナログタイムモードでは[Analog Time]ボックスで設定された時間毎にイベントメッセージを送信します。

設定可能な時間は 0.1～10 秒（100～10,000ms）です。



上記で構成されたイベントメッセージはイベントメッセージが IP アドレス 169.254.0.100 のポート 49494 に 1 秒ごとに送信され、

メッセージの後ろに電圧値(0～4095)が付きます。例：「VOLUME 2658 <CR>」

14.3.3 - Digital Mode

デジタルモードは、入力のデジタル状態が変化した時にイベントメッセージをトリガーします。

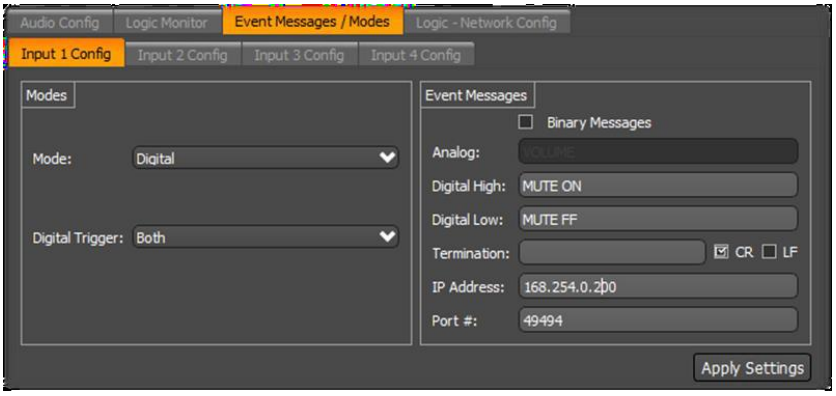
トリガーモードは下記の通り選択する事が可能です。

・Rising （上昇）

・Falling （下降）

・Both （両方）

トリガーモードを選択すると選択したモードに対応したテキストボックスが入力可能になります。



例として上記の図の様に構成されたイベントメッセージは、GPI Input1 がそのデジタル状態を変更するたびに IP アドレス 169.254.0.200 のポート 49494 にメッセージを送信します。

GPI Input 1 の状態が Low から High に変化すると Digital High に入力された「MUTE ON <CR>」が送信されます。

High から Low に変化した場合 Digital Low に入力された「MUTE OFF <CR>」メッセージが送信されます。

デジタルモードの一般的な使用例はマイクのスイッチ設定やミュート状態をネットワーク上にある DSP や制御システムに伝える為に使用されます。

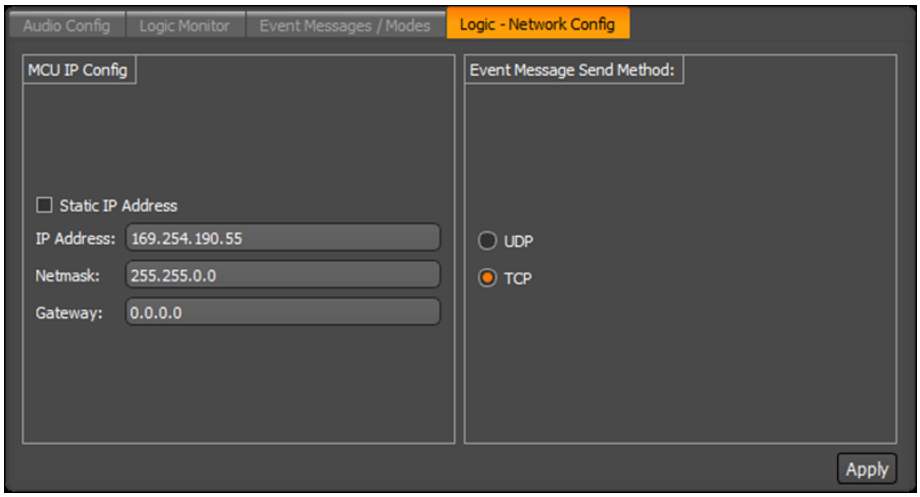
14.3.4 - Event Message

Event Message では送信するメッセージデータを設定する事ができます。メッセージを入力するテキストボックスは選択されたモードに応じて有効になります。

[Binary Messages]ボックスにチェックがない場合、メッセージデータは ASCII 形式のメッセージを送信します。

[Binary Messages]ボックスにチェックをすると 16 進数のメッセージを入力する事ができ、スペースで区切られた 2 文字の 16 進数で表されます。例えば「0xDEADBEEF」は「DE AD BE EF」になります。

14.4 - Logic Network Config



unD4I-L との一般的なセットアップの通信は Dante のメインネットワークインターフェイスを介して行われます。しかしイベントメッセージは完全に別のネットワークインターフェイスを介して送信されます。イベントメッセージ送信用のネットワークインターフェイスは IP アドレスを必要としますが、この IP アドレスは unD4I-L のオーディオシステムへの統合にとって重要ではありません。

※Dante オーディオネットワーク用とイベントメッセージ送信用のネットワークインターフェイスはどちらも IP アドレスを必要としますが、1 本のイーサネットケーブルだけを使用して接続します。 unD4I-L には個別に配線可能な独立したコントロール専用ネットワークポートはありません。

Dante と同様にイベントメッセージ送信用ネットワークインターフェイスも IP アドレスを設定する事ができます。

デフォルトでは unD4I-L のイベントメッセージ送信用のネットワークインターフェイスは IP アドレスを取得する(動的)ように設定されています。これはネットワーク内に DHCP サーバーがいれば IP アドレスをもらい、DHCP サーバーがいない場合はローカルリンクアドレス(169.254.x.y)を使用します。

イベントメッセージ送信用ネットワークインターフェイスに静的 IP アドレスを割り当てる必要がある場合は[Static IP Address]ボックスにチェックし、任意の IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力してください。このネットワークインターフェイスは unD4I-L からイベントメッセージを送信するためだけに使用されます。送信先のデバイスが unD4I-L が到達できる IP アドレス範囲にいなければならないことに注意してください。

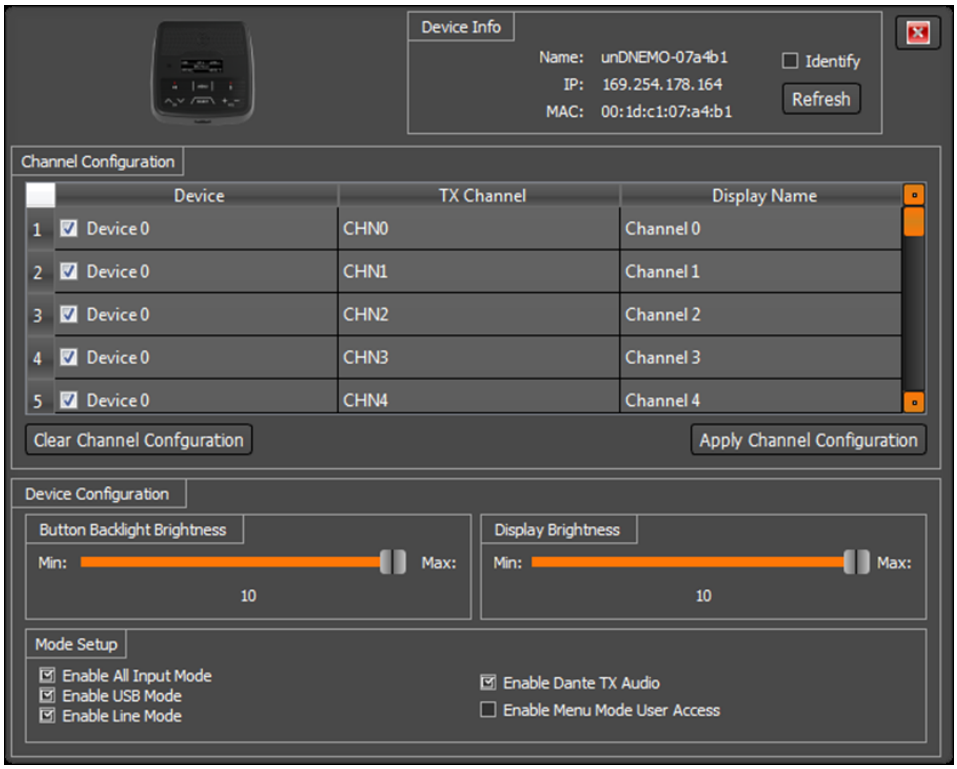
設定を変更し[Apply]ボタン押すとデバイスは自動的にリセットされ unIFY Control Panel から切断されます。

予期せぬデータ損失がない様に注意してください。

Event Message Send Method では送信メッセージを TCP、UDP プロトコルから選択する事ができます。

※ロジックイベントネットワークインターフェイスの設定はグローバル設定でありプリセットデータとして保存されません。
設定を保持するにはコントロールパネル内の[Save Presets]機能を使用しプリセット 0 に保存する必要があります。

15 - unDNEMO の設定



unDNEMO の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

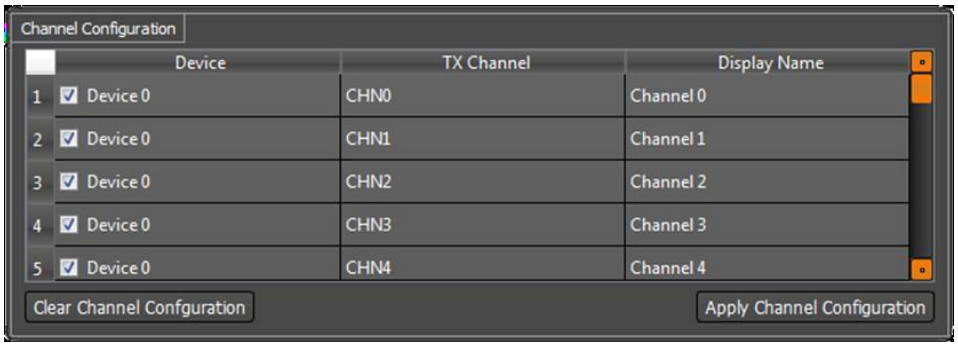
・Channel Configuration

・Device Configuration

15.1 - Channel Configuration

unDNEMO を使用するには、Dante ネットワークを監視するためのチャンネル設定を最初に設定する必要があります。

この作業は unIFY Control Panel から簡単に行う事ができます。



Channel Configuration ページは下記の3つの列で構成されています。

・Device

・TX Channel

・Display Name

このページでは各テキストボックスに Dante デバイス名、チャンネル名を手動で入力する事ができます。この時大文字と小文字は区別されますのでご注意ください。またチャンネル設定はドラック&ドロップ機能を使用する事もできます。デバイス設定に必要な時間を最小限に抑えるだけでなくスペルミスの可能性を排除する事もできます。

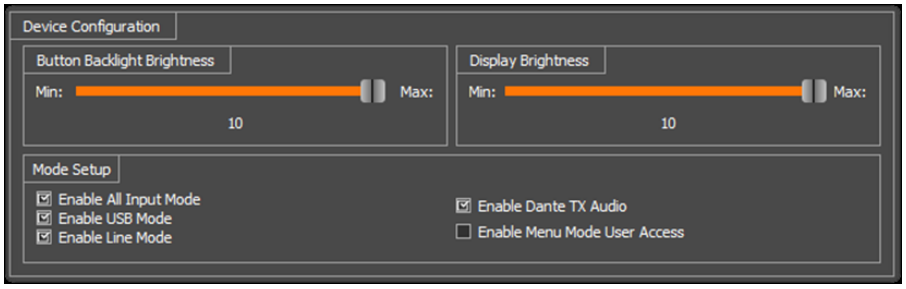
デバイスリストからチャンネルリストを表示し目的の TX チャンネルをチャンネルラベルにドラッグしてください。TX チャンネルではなくデバイス名をドラッグする事もでき、この場合使用可能なすべてのチャンネルが自動的に入力されます。ドラッグ&ドロップ機能でチャンネルを指定すると Display Name が自動的に TX チャンネル名と同じになります。

Display Name は unDNEMO 本体ディスプレイに表示される名前です。他の名前を使用する場合は任意の 32 文字以内の名前を上書きする事ができます。チャンネルリストの各行にはチェックボックスがあります。使用するチャンネルにはチェックを入れてください。チェックがないチャンネルは unDNEMO 上で表示されません。

設定が完了したら[Apply Channel Configuration]ボタンをクリックし情報を送信します。

複数の unDNEMO を設定する場合は設定をプリセットファイルとして保存し Multiple Device Preset Load 機能のご使用をお勧め致します。

15.2 - Device Configuration



15.2.1 - Button Backlight Brightness

unDNEMO には薄暗い環境下でも視認性を高めるバックライト付きボタンキーパッドがあり、バックライトの明るさをスライダコントロールで調整する事ができます。調整幅は1（最小）～10（最大）までです。

15.2.2 - Display Brightness

unDNEMO は明るさを調節可能な視認性の非常に高い OLED ディスプレイを搭載しています。

輝度をスライダコントロールで調整する事ができます。調整幅は1（最小）～10（最大）までです。

15.2.3 - Mode Setup

モードセットアップ機能はユーザーが様々な環境に合わせて unDNEMO の機能を最適にカスタマイズする事ができます。

15.2.3.1 – Enable All Input Mode

All Input Mode では Dante ネットワーク、USB オーディオ入力、ライン入力、全ての入力を同時にミックスし、

複数のオーディオ入力からの同時モニタリングが必要な環境を提供します。

15.2.3.2 – Enable USB Mode

USB Mode ではコンピューターと双方向オーディオ通信を実現する USB サウンドカードとして動作します。

15.2.3.3 – Enable Line Mode

Line Mode を使用すると unDNEMO はライン入力に接続されたオーディデバイスのローカルモニタとして動作します。

15.2.3.4 – Enable Dante TX Audio

チェックを入れると下記の様に unDNEMO から Dante ネットワークへオーディオをブリッヂすることができます。

・Net Mode – 内部マイクもしくは外部マイクは unDNEMO の Dante 送信チャンネル1に出力されます。

・USB Mode – USB 接続されたコンピューターのオーディオ信号は Dante 送信チャンネル 1(L)と 2(R)に出力されます。

・Line Mode – 背面から接続されたライン入力が Dante 送信チャンネル1と2に出力されます。

・All Input Mode – Dante 送信チャンネルには出力されません。

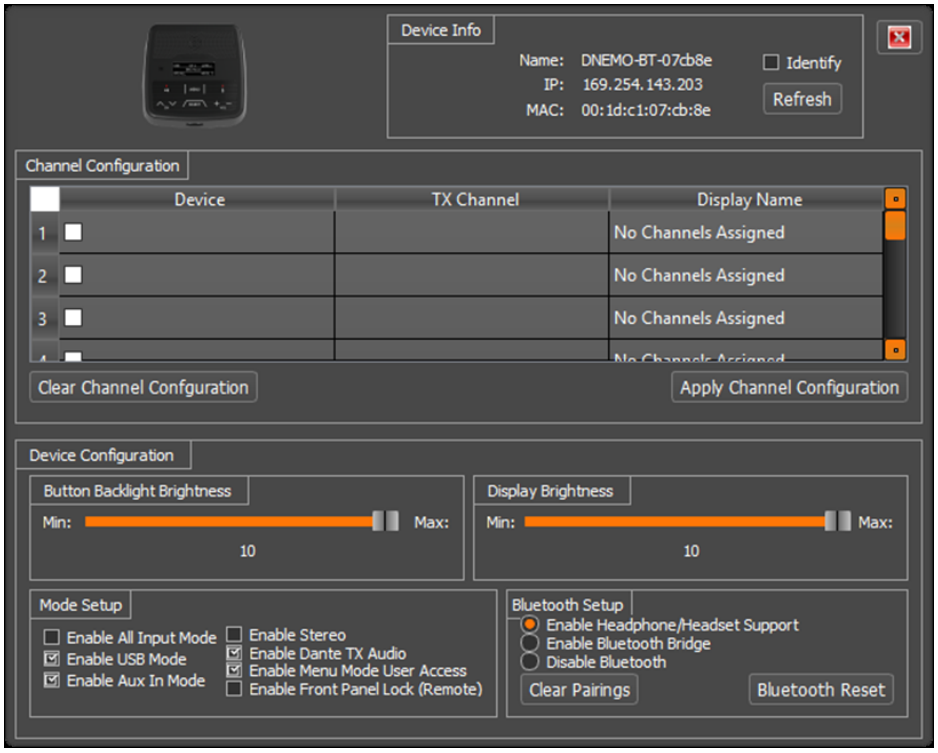
15.2.3.5 – Enable Menu Mode User Access

unDNEMO にはデバイスの情報とデバイス機能の設定を表示するメニューモードがあり、このボックスにチェックを入れると

本体からメニューへアクセスする事ができるようになります。

※Device Configuration の全ての設定はソフトウェアで変更するとすぐにデバイスへ反映されます。

16 - unDNEMO-BT の設定



unDNEMO-BT の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

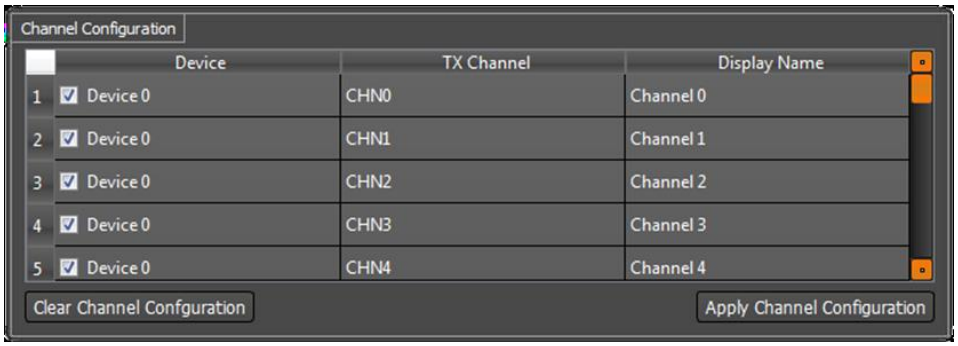
・Channel Configuration

・Device Configuration

16.1 - Mono Channel Configuration

unDNEMO-BT を使用するには、Dante ネットワークを監視するためのチャンネル設定を最初に設定する必要があります。

この作業は unIFY Control Panel から簡単に行う事ができます。



Channel Configuration ページは下記の3つの列で構成されています。

・Device

・TX Channel

・Display Name

このページでは各テキストボックスに Dante デバイス名チャンネル名を手動で入力する事ができます。この時大文字と小文字は区別されますのでご注意ください。またチャンネル設定はドラック&ドロップ機能を使用する事もできます。デバイス設定に必要な時間を最小限に抑えるだけでなくスペルミスの可能性を排除する事もできます。

デバイスリストからチャンネルリストを表示し目的の TX チャンネルをチャンネルラベルにドラッグしてください。TX チャンネルではなくデバイス名をドラッグする事もでき、この場合使用可能なすべてのチャンネルが自動的に入力されます。ドラッグ&ドロップ機能でチャンネルを指定すると Display Name が自動的に TX チャンネル名と同じになります。

Display Name は unDNEMO-BT 本体ディスプレイに表示される名前です。他の名前を使用する場合は任意の 32 文字以内の名前を上書きする事ができます。チャンネルリストの各行にはチェックボックスがあります。使用するチャンネルにはチェックを入れてください。チェックがないチャンネルは unDNEMO-BT 上で表示されません。

設定が完了したら[Apply Channel Configuration]ボタンをクリックし情報を送信します。複数の unDNEMO-BT を設定する場合は設定をプリセットファイルとして保存し Multiple Device Preset Load 機能のご使用をお勧め致します。

16.2 - Stereo Channel Configuration

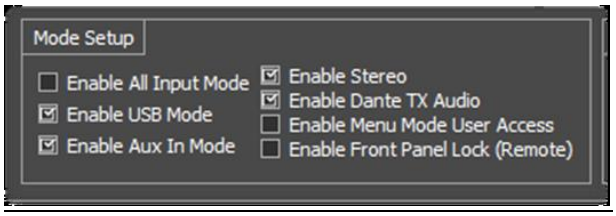
Enable Stereo のチェックボックスを選択するとステレオモニターモードを使用する事ができます。

ステレオモニターモードではチャンネルリストが 32 チャンネルのペア(1-L、1-R、2-L、2-R など)を表示するように変更されます。

[Display Name]の列はL側のチャンネルに割り当てられた名前から取得されR側の名前は無効になります。各チャンネルの設定方法はモノラルチャンネルの時と同様です。ヘッドフォンでモニターする場合hsステレオ信号としてモニターする事ができます。

また内蔵スピーカーからはモノラルサミングされ出力されます。

16.3 – Device Configuration



16.3.1 - Button Backlight Brightness

unDNEMO-BT には薄暗い環境下でも視認性を高めるバックライト付きボタンキーパッドがあり、バックライトの明るさをスライダコントロールで調整する事ができます。調整幅は1（最小）～10（最大）までです。

16.3.2 - Display Brightness

unDNEMO-BT は明るさを調節可能な視認性の非常に高い OLED ディスプレイを搭載しています。

輝度をスライダコントロールで調整する事ができます。調整幅は1（最小）～10（最大）までです。

16.3.3 - Mode Setup

モードセットアップ機能はユーザーが様々な環境に合わせて unDNEMO の機能を最適にカスタマイズする事ができます。

16.3.3.1 – Enable All Input Mode

All Input Mode では Dante ネットワーク、USB オーディオ入力、ライン入力、全ての入力を同時にミックスし、複数のオーディオ入力からの同時モニタリングが必要な環境を提供します。

16.3.3.2 – Enable USB Mode

USB Mode ではコンピューターと双方向オーディオ通信を実現する USB サウンドカードとして動作します。

16.3.3.3 – Enable Aux In Mode

Aux In Mode ではライン入力または Bluetooth®に接続されたオーディオデバイスのローカルモニタとして動作します。

AUX ソースは unDNEMO-BT 本体のフロントパネルからユーザーが選択します。

16.3.3.4 – Enable Stereo

ステレオ機能を有効にすると全てのチャンネルをステレオペアとして設定します。

16.3.3.5 – Enable Dante TX Audio

このボックスにチェックを入れると下記の様に unDNEMO-BT から Dante ネットワークへオーディオをブリッヂすることができます。

・Net Mode – 内部マイク、もしくは外部マイクは unDNEMO-BT の Dante 送信チャンネル1に出力されます。

・USB Mode – USB 接続されたコンピューターのオーディオ信号は Dante 送信チャンネル 1(L)と 2(R)に出力されます。

・Line Mode – 背面から接続されたライン入力が Dante 送信チャンネル1と2に出力されます。

・All Input Mode – Dante 送信チャンネルには出力されません。

※Dante 送信チャンネル機能はこのオプションの設定に基づいて構成されます。

16.3.3.6 – Enable Menu Mode User Access

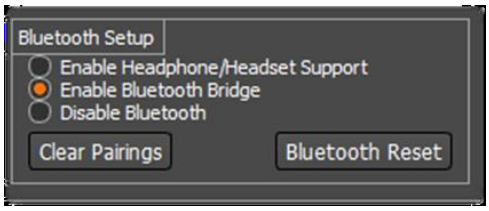
unDNEMO にはデバイスの情報とデバイス機能の設定を表示するメニューモードがあり、このボックスにチェックを入れると本体からメニューへアクセスする事ができるようになります。

16.3.3.7 – Enable Front Panel Lock(Remote)

この機能はエンドユーザーがボリュームやミュートのコントロール以外の全てのフロントパネル機能を操作できなくする機能です。この機能は外部制御システム等から管理させるアプリケーションに適しています。

※Device Configuration の全ての設定はソフトウェアで変更するとすぐにデバイスへ反映されます。

16.4 - Bluetooth Setup



unDNEMO-BT の Bluetooth®機能を以下のモードから選択する事ができます。

・Hadphone / Headset Support – ヘッドフォンまたはヘッドセットでのワイヤレスモニター機能を使用します。

・Bluetooth Bridge – unDNEMO-BT が受信した Bluetooth®オーディオを Dante ネットワークに出力します。

・Disable Blutooth – Bluetooth®機能は無効になります。

16.4.1 - Clear Pairings

この機能はペアリングされたデバイスをクリアします。

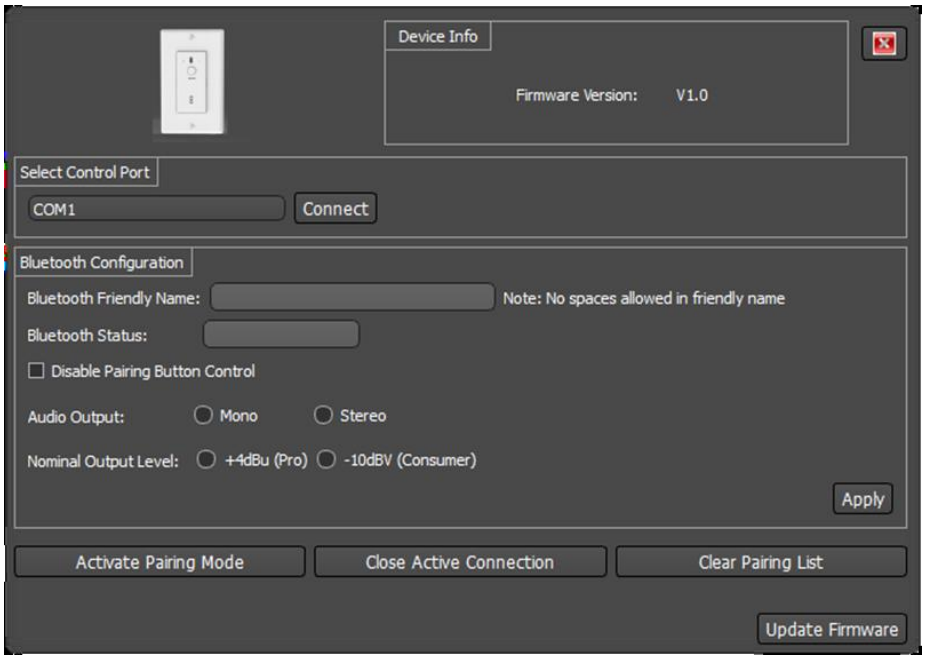
この機能は一般的には使用しませんが接続の問題を解決するのに役に立つ事があります。

16.4.2 - Bluetooth® Reset

この機能はなんらかの障害が発生した時に Bluetooth®インターフェイスをリセットします。

17 - unBT2A の設定

unBT2A の設定画面を表示するにはメニューバー上の Tools から unBT2A Configuration を選択してください。



unBT2A の設定フォームは下記のセクションで構成されています。

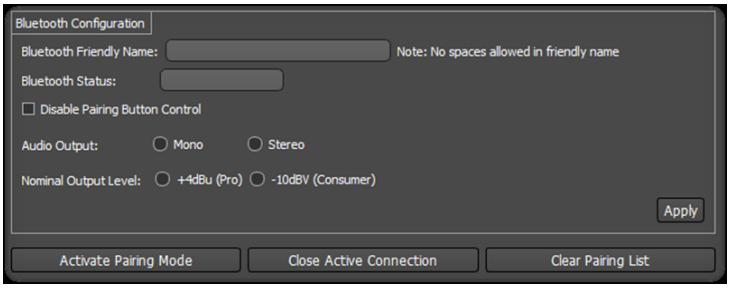
・Bluetooth® Configuration

17.1 - Control Port Selection

unBT2A は USB 接続を使用して通信し仮想COMポートを使用します。正しい COM ポートを設定するには、Windows のデバイスマネージャーを開きリストのポートから unBT2A を探してください。

COM ポートがわかったら unIFY Control Panel のドロップダウンリストから適切な COM ポートを選択し[Connect]ボタンを押し接続してください。

17.2 - Bluetooth® Configuration



17.2.1 - Bluetooth® Friendly Name

接続しようとする Bluetooth®機器に表示される Bluetooth®名を編集する事ができます。Bluetooth®名を編集すると複数の unBT2A デバイスが近接して配置されていたとしても容易な識別を可能にし接続ミスを防ぎます。

17.2.2 - Bluetooth® Status

Bluetooth®インターフェイスの現在のステータスを確認する事ができます。メッセージの一覧は下記の通りです。

・Idle ： アイドル状態

・Discoverable ： 検索可能状態

・Connected ： 接続済み

17.2.3 - Disable Pairing Button

このボックスにチェックを入れるとデバイス本体のペアリングスイッチが無効になります。

17.2.4 - Audio Output

この機能は unBT2A の出力をモノラルかステレオかを選択する事ができます。

17.2.5 - Nominal Output Level

この機能は規定出力レベルを指定する事ができます。+4dBu(+20dBu max)と-10dBV(+10dBV max)から選択します。

17.2.6 - Activate Pairing Mode

この機能はペアリングモードをリモートでアクティブにする事ができます。

17.2.7 - Close Connection

この機能は現在接続中の Bluetooth®接続をリモートで終了する事ができます。

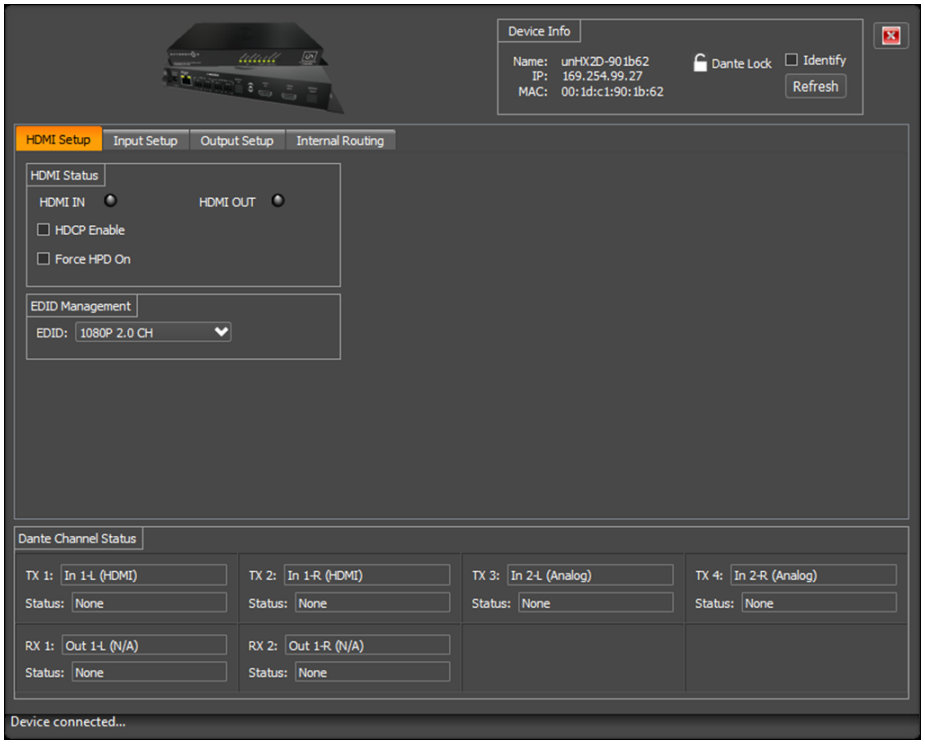
この機能はステータス表示が Connected の時のみ機能します。

17.2.8 - Clear Pairings

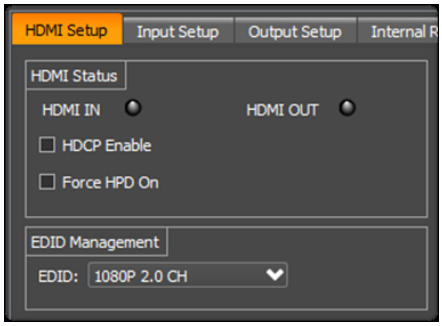
この機能はペアリングされたデバイスをクリアします。

この機能は一般的には使用しませんが、接続の問題を解決するのに役に立つ事があります。

18 - unHX2D の設定



18.1 - HDMI Setup



unHX2D を使用するとデバイス上の HDMI I/O 間で HDMI オーディオをエンベデッド、デエンベデットする事ができます。

HDMI Setup ページは以下の設定と状態の監視を行う事ができます。

18.1.1 - HDMI Status

緑色の LED 表示は HDMI の入力(ソース)もしくは HDMI 出力(シンク)が接続されています。

HDMI IN の LED 表示が黄色の場合は HDCP が無効になっています。

18.1.2 - HDCP Enable

unHX2D は入力側の HDCP を無効にする事ができます。

これはコピープロテクトされたコンテンツの暗号を解除するのではなく HDCP をサポートしていないシンクデバイス(モニタやプロジェクタ)にソース信号を送信する為に使用されます。デフォルト設定では HDCP は有効になっています。

18.1.3 - Force HPD On

HPD(Hot Plug Detect)機能は HDMI リピーター機器上でソースデバイスに接続されたシンクデバイスの有無を知らせるために使用されます。Force HPD On は強制的に HPD を On にする事ができます。これは HDMI 出力側に機器が接続されていない状態で HDMI オーディオをデエンベデットする時等に使用します。デフォルト設定では Force HDP On 機能は無効になっています。

18.1.4 - EDID Management

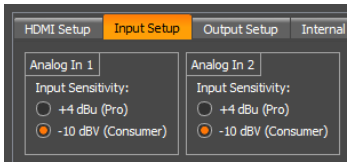
unHX2D の EDID 設定はソースデバイスに送信するフォーマットを選択します。

EDID は下記の設定が可能です。

EDID 設定詳細
1080 p / 2ch PCM (デフォルト)
1080 i / 2ch PCM
3D / 2ch PCM
4K / 2ch PCM
Copy Through(シンクデバイスの EDID)

可能であれば 2ch PCM モードに手動で設定する事をお勧めします。Copy Through 設定は圧縮されたマルチチャンネルコンテンツをエンベッドする事ができるため、unHX2D はデコードできずにノイズを出す可能性があります。

18.2 - Input Setup



unHX2D は2chのアナログオーディオ入力を搭載しています。

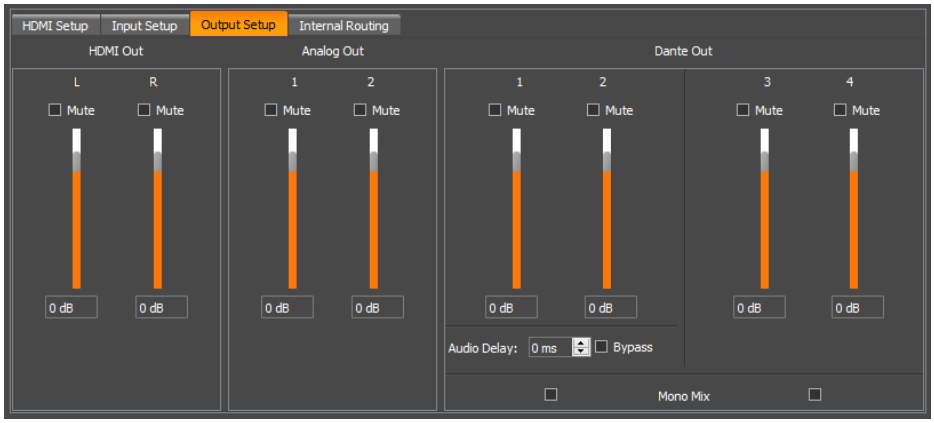
入力規定レベルを各チャンネルごとに設定することができます。

規定レベルは+4dBu と-10dBV から選ぶことができます。

デフォルト設定は-10dBV です。

18.3 - Output Setup

unHX2D はアナログオーディオ出力、HDMI オーディオ出力、Dante オーディオネットワーク出力をサポートしています。



各チャンネルごとにボリュームコントロール、ミュート機能に加え、Dante 出力は MonoMix オプションを搭載しています。

さらに Dante 出力チャンネルの1と2は、リップシンク用の最大 400mS のディレイを搭載しています。

18.4 - Internal Routing Matrix

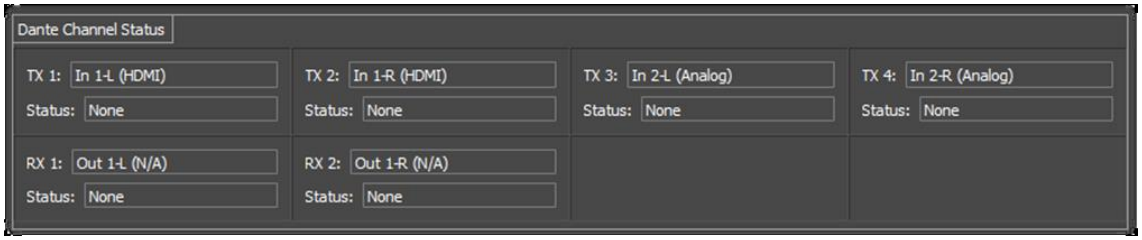
unHX2D は任意の入力から任意の出力まで-100dB ～0dB でレベル調節可能なステレオマトリクスミキサーを搭載しています。

[Mirror HDMI to SPDIF]のボックスにチェックを入れるとオーディオエンベデッド機能が無効になり、関連する全ての HDMI 出力ミックスコントロールが無効になります。

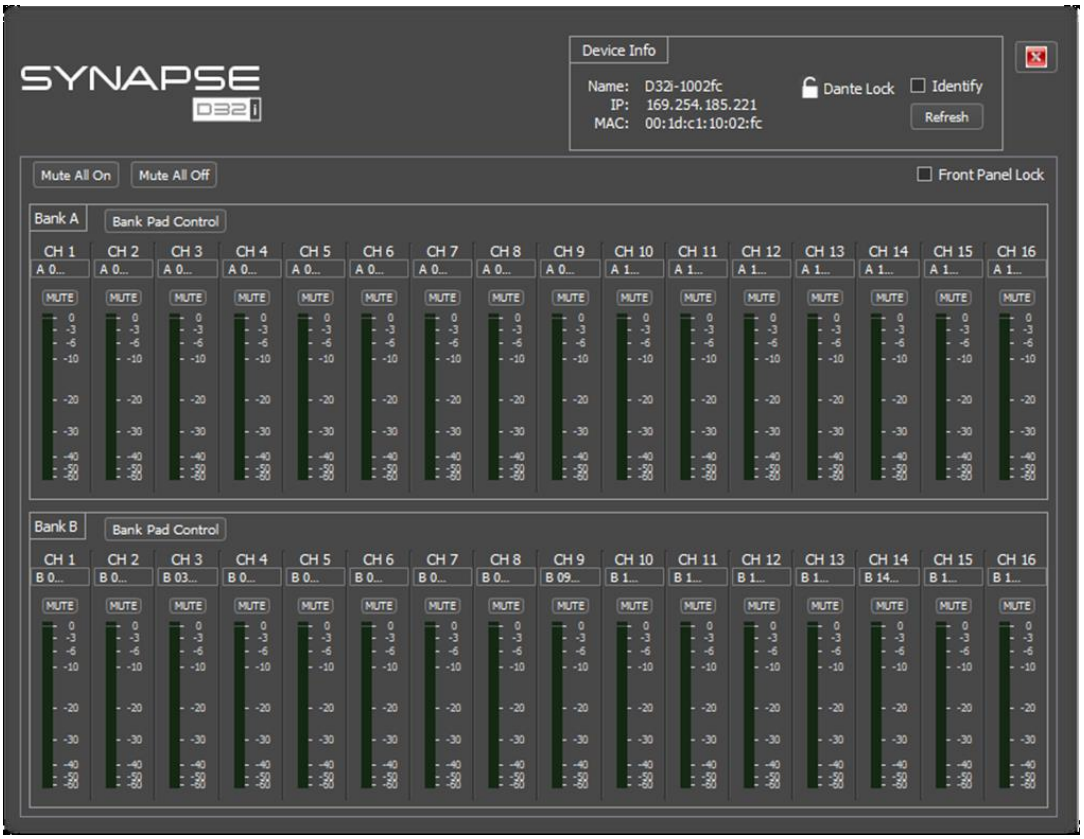
18.5 - Dante Subscription Status

現在の Dante 受信チャンネル、送信チャンネルの割り当て及びステータスを確認する事ができます。

チャンネルの割り当ては Dante Controller などから行います。



19 - Synapse D32i の設定



19.1 - Bank Pad Control

Synapse D32i のインプットは BankA と BankB の2つ分割され、それぞれのバンクには入力レベルを設定するパッドがあります。

パッドの設定はバンク内のすべての入力に適用され、入力ごとに個別に設定する事ができません。

パッドがオンの場合、+4dBu、オフの場合-10dBV となります。

19.2 - Mute All On/Off

[Mute All On]をクリックすると 32 入力全てが同時にミュート状態になります。[Mute All Off]は全てのミュートをオフにします。

これらの機能を使用すると個々のミュート状態は維持されません。

19.3 - Front Panel Lock

[Front Panel Lock]ボックスにチェックを入れると Synapse D32i のフロントパネルからモニター設定を変更する事ができなくなります。モニター機能はこの機能をオンにした時のチャンネルにロックされます。

19.4 - Dante TX Channel Name

Dante 送信チャンネル名は各チャンネルのチャンネル番号のすぐ下に表示されます。表示ボックスが小さいため全て表示されない事がありますが、その場合名前の上にカーソルを置くと名前全体を示すポップアップが表示されます。

※チャンネル名を編集するにはリストビューか Dante Controller から編集します。

19.5 - Mute

各入力にはそれぞれミュート機能がありミュートがオンの場合オレンジに点灯します。

ミュート状態を変更するにはボタンをクリックします。

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは株式会社オーディオブレインズまでご連絡ください。お問合せ受付時間は、土日祝日、弊社休業日を除く 10:00～18:00 です。

株式会社オーディオブレインズ

〒216-0034

神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷 3-1

電話:044-888-6761

20170804